

ターズの言語と文化*

第3章

風間伸次郎・V. V. ポドマスキン

1. ターズとその言語

1.1 ターズとは

ターズとはロシア沿海州の小村に住むわずか 200 人ほどの少数民族であり、ロシアでもその報告はわずかしかなく、日本ではその存在すらまったく知られていない。彼らは漢語の一方言を話す、漢字はひとつも読めない。ターズ語の話者は全員がロシア語とのバイリンガルで、若者はもはやロシア語しか話せない。しかしみずからを漢民族とは考えず、少数民族「ターズ」としてのアイデンティティを保っている。実際文化の面ではさまざまな北方少数民族の要素もみいだされる。このようにきわめてユニークな存在である「ターズ」はどのようにして生まれたのか。私は現地調査によってターズの実際の言語と文化にふれることができた。したがって本章はターズについての日本で初めての報告ということになるだろう。

まずターズの概況を知るために、近年ロシアで出版された *Red book of the Languages of Russia* (Neroznak et al., 1994) の「ターズ語 (tazov

*第1節「ターズとその言語」を風間が、第2節「ターズの文化」をポドマスキンが執筆した。

jazyk, Belikov i Perekhvar'skaja)」にこの民族の簡潔な紹介があるので、まず拙訳によりこれを以下に示す。なお私は調査に向かった 1995 年当時には、まだこの記述を目にしていなかった。

ターズ語—漢語北方方言の下位方言のひとつ

現在ターズという民族名称は、沿海州オリジンスキー地区ミハイロフカ村に住む小さな民族に対して主として用いられている。そのもっとも際立った特徴は、南沿海州の原住民の民であるにもかかわらず、漢語の北部の方言を話し、その精神文化と物質文化に関して漢民族と類似していることである。ロシア共和国極東地区(DVF)歴史研究所のデータによれば、1979年にターズは191人住んでおり、そのうち174人がオリジンスキー地区に、うち115人がミハイロフカ村に住んでいる。

ターズという民族名称は隣接する地区に住む漢民族たちがウスリー州の先住民であるウデヘおよびナーナイをよんだ用語「韃子」に由来する。ロシア人はその漢民族の名称を複数形の тазы として再解釈し、そこから単数形の таз および女性形の тазовка が形成された(パスポート、村ソビエトの戸籍、その他の書類にもそのように記載される)。

1858-1860年におけるウスリー州のロシアへの編入以降、ロシア人はここで先住民たちと衝突した。すなわちその先住民とは、すでにゴリド(ナーナイ)として知られていた先住民とおそらくかつてはほとんど知られていなかったウデヘであり、これを当地の漢民族に従ってターズという民族名称でよぶようになったものだが、この名称はそもそもウスリー地区に住むすべての先住民をさすものであった。それはふつうウデヘを意味していたが、オロチと区別されておらず、必ずしも漢語を話す者たちに限られていなかった(O. Vasil'ev, L. Shrenk 参照。またウデヘに関する最初のくわしい民族誌である S. Brailovsk の "*Tazy ili Udihe*" ではウデヘとターズは類義語として用いられている)。

V. K. Arsen'ev の業績によってのみ、一方ではウデヘとオロチ、他方ではウデヘとターズの筋の通った分割が行なわれた。V. K. Arsen'ev は

ターズを「漢民族化した」ウデヘ、すなわち中国式家屋に定住し、農業に従事し、その本来の母語をほとんど失ったウデヘとして特徴づけた。とはいっても彼はこの民族が漢民族と混合したとみるのが正しいとはしていない。むしろこれを独立した民族として分離することが妥当であるとしている。このようにターズという民族名は、先住民起源だが言語が漢民族化した集団をよぶものとして例外的に確立された。

沿海州にロシア人が到来した時期には、すでにウスリー沿いおよび南沿海州の先住民たちは2言語使用の状況にあった。すなわち本来の母語であるウデヘ語もしくはナーナイ語のほかに皆漢語を実地にあやつることができた。この地域のロシアへの編入以後も、漢民族による現地の住民への言語的・文化的影響は少しも衰えなかった。1910年における沿海州地域の、季節労働者を除く漢民族男性の定住者の人口は、6万1400人で、他方当時のナーナイ人の人口はせいぜい1万人強であり、ウデヘは3000人強であった(1897年のデータによれば、全部ではないかもしれないが、ナーナイは5439人、ウデヘとオロチは2407人登録されている)。この際に多くの漢人たちが先住民の集落の間に住むようになったが、中国政府が漢民族の女性に対しロシアへの渡航を禁じたために、彼らはナーナイやウデヘの女性を妻にめとった。このような状況下での漢民族の言語的および文化的影響はかなりのものであった。ナーナイとウデヘは農耕の習慣と一部ブタの飼育の習慣を受け入れ、恒久的な家屋(「房子」)を建て始め、漢民族から衣服、調理方法、宗教的信仰を取り入れた。ビキン川のウデヘの親族体系は混合的な性格をもっている。すなわち親族の父系と母系の対立については漢民族的なやり方が用いられる。ウデヘ語とナーナイ語の日常的な語彙への漢語の影響はきわめて重大なものである。ビキンにおける年配のウデヘとナーナイのうち、かなりの者が、またイマンのウデヘは今でも程度の差はあれ漢語をあやつることができる。

南沿海州における漢民族の影響はあまりに強力であったので、この地域の住人はその文化ばかりでなく言語も受け入れた。その際に彼らは自

分たちの民族的特殊性の意識を保ち続け、みずからを漢民族とはみなさなかった。ウスリー上流のナーナイと南沿海州のウデへは漢民族風の衣服をまとい、「房子」を建て畑を耕し、外見上は漢民族とほとんど違いがなかった。しかしいくつかの生活習慣の特徴は今でも彼らがウスリー州の先住民であることを示している。漢民族においては女性は大部分の時間を家で過ごし、実地には農業に従事しないし、森に入ることももちろんない。一方ターズの女性たちは男性たちと並んで畑で働くのみならず、ウデへの女性たちと同様に、獲物をとってくるために森に入り、家族に成人した男性が欠けている場合には狩猟さえ行なった。これ以外にも、漢人たちの食卓からは生の生き物の料理が排除されていたにもかかわらず、ターズはナーナイやウデへと同様に、生の肉や魚を食べていた。最後に、ミハイロフカ村のいく人かの老人(パスポートにはゴリドと書かれている)は、彼らの両親たちが、子どもたちにはすでにわからないような、漢語でもない母語で彼らの間では話をしていたことを覚えている。

1930年代の中ごろ、ソ連からの大量の外国人国外追放が始まったが、1936年から、極東でも中国および朝鮮国籍の住人が追放されるようになった。漢民族とともに漢語を話すターズも追放され始めた。しかしターズは独自の民族であると主張する V. K. Arsen'ev の説明のおかげで、一部のターズは追放を免れることとなった。しかしそれに至るまでも彼らはいやいやながら彼らの言葉が漢語であることを認めながら、彼らは「自分たちの言葉」を話しているのだと確信することをより好んだ。この恐怖は1970年代初めの中ソ国境紛争の後でかなりの程度に強まった。実際この時代に生まれた混血児たちは皆ターズと記録しなかったが、後になって中国との関係が正常化し、パスポートを受け取る際には彼らの多くがターズと書かれることを好んだのである。

漢語に移行したウスリー上流のナーナイたちは革命前までのロシアでの民族名「ゴリド」を自称として保持した(女性形はゴリジャーチュカ)。ウスリー上流域で、バラバラの「房子」に住んでいたゴリドたちは、集

住化の際にサンダゴウ村(現在の Bulyga-Fadeeva)に移住させられた。

主にオリギンスキー地区、カワレーロフスキー地区、テテュヒンスキー地区に住むターズの大部分(約250人)は、朝鮮人の強制退去によって空になったオリギンスキー地区のミハイロフカ村に集住化させられ、コルホーズに統合された。1948-1949年、まだ集められていなかったラゾフスキー地区のターズがそこにさらに合併された。1951-1952年にはそこへウスリー上流のゴリド(約50人)が集住化させられてきた。実際ゴリドはターズと対立せず、彼らとともにひとつの民族を形成した。現在彼らはパスポートの記載という点でのみターズと異なっている。

その後かなりの数のターズとゴリドがミハイロフカ村を捨てて出ていき、ここにはロシア人と、ほかの民族のさまざまなグループがやってきた。現在ターズ(115人)とゴリド(25人)はこの住民の60%を占めている(1990年のデータによる)。

現在ミハイロフカは良好な経済状態のもとに繁栄しており、畑に囲まれた木の家がよく建てられていて、住人たちは乳牛やブタを飼い、ニワトリやアヒルもいる。ターズたちはまわりのロシアの村の住人のような衣服をまとっているが、いく人かの老人は「葬式用の」伝統的衣装を保っている。女性の衣服で、ズボンおよび黒の綿入れのキルティング上衣をみることができる(写真3.1参照;筆者註)。いくつかの家の中庭には、紙に書かれたものなどによる、描き出された中国の神がある祭壇がある。ターズは北方の漢人にとって伝統的なさまざまな料理をつくる。すなわち饅頭(蒸してつくられる生パン)、ポーズ(蒸してつくる肉餡入りピロシキ)、リャンツァイ(細く千切りにしたジャガイモ(写真3.2参照;筆者註)と肉からつくった料理)、ペリメニである。

A. M. Reshetov の情報によれば、ターズの言葉は漢語の北部方言に關係があるという。それは北部中国の諸方言に似ているが、この地域の言語の影響によって説明される多くの独自の特徴をもち、同時にじつに30年代中ごろに始まる長い隔絶のためにかかなり孤立したものとして存在し、そう転化してきた。



写真 3.1 生前にすでに用意している死に装束(その内側)

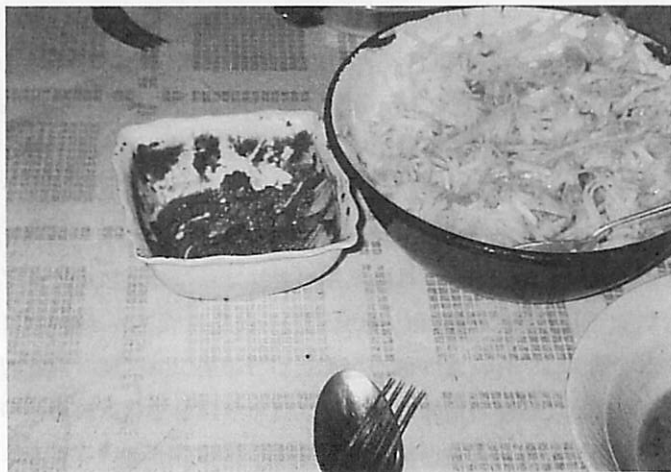


写真 3.2 生のジャガイモの千切り。このまま味噌をつけて食べる。

現在ターズはロシア式の名前と父称をもっており、父もしくは祖父の中国式の名前全体が名字にあたるものになっている場合がいくつもある。それゆえたとえば従兄弟どうしが Ulajsi と Ubolin(女性形は Ubolina) という名字をもっているが、これらの名字は彼らの父の中国式の名前全体である。すなわち U Laj-si および U Bo-lin であり、そこでは U が本来の名字である。

ターズは勤労的な民族であり、彼らは優秀な農業労働者であるばかりでなく、子どもたちに教育を受けさせることにも熱心である。ターズの間には1人のロシア軍陸軍大佐がいる。ロシアのほかの少数民族におけると同様に、若い世代はいつもその母語をよくあやつるとは限らない。ターズにおいてもこの過程はとくに混血の過程において進行しているが、にもかかわらずここでの言語の保持の割合はウデへにおけるそれよりも高い。召集兵となれば、十分な程度で中国語を使いこなして無線傍受班の仕事をする能力があると、十分にいうことができる。

ターズの物質文化および精神文化についての広範な情報は、Ju. A. Sem によって準備された未発表の論文に含まれている。A. M. Reshetov によって集められたターズの言語と宗教、精神文化についての豊富な資料が彼の個人的なフィールドノート(アルヒーフ)にみいだされる。

〈その他の参考文献〉

V. K. Arsen'ev の論集における「ターズとウデへ」：極東統計局統計報告書，ハバロフスク，1926，No. 1。V. K. Arsen'ev「森の民 ウデへ」著作集5巻，ウラジオストック，1948。S. Brailovskij「ターズとウデへ：民族学的研究の体験 生きている昔」，『北極6』，1901。Ju. A. Sem「ソビエト政権後のナーナイの人口分布の変化について」極東支部 Tr. V. L. Komarova ロシア化学アカデミー-SO.，歴史シリーズ，2巻，ウラジオストック，1961。

1.2 タース調査行

そもそもタースの現地調査をすることになったのはつぎのようないきさつからであった。私はツングース諸語を専門とする言語研究者で、これまでナーナイ語やウデヘ語などのツングース諸語の現地調査をしてきた。あるとき『言語学大辞典』第2巻(亀井・河野・千野, 1989: 1058-1083)の「ツングース語」の項(池上二良執筆)の地図をみていると沿海州の南端にウデヘ語の話者の存在を示す印があり、しかも?マークがついている(図3.1参照)。そのころよりよく来日したウラジオストクの民族学者であるボドマスキン氏に話を聞くと、そこにはウデヘと漢族の混合したといふべき民族「タース」が住んでおり、その言語は謎でまだ誰も調べていない、という。日本や朝鮮とももともと近いこのあたりに、いまだ研究されていない謎の言語があるということは私にとって大きな驚きであり、これは是が非でも調査しなければならぬと考えた。早速ボドマスキン氏にガイドをお願いし、調査に入る手はずを整えた。1995年の夏のことであった。その夏、私はやはりツングース諸語のひとつであるオロチ語の調査を終え、いったんウラジオストクへ戻り、8月13日の早朝ウラジオストクをたつてめざすタースの村ミハイロフカに向かった。その道のりはまったく苦難の道のりといふべきものであった。以下に述べる行程については図3.2も参照されたい。

朝5時ボドマスキン氏の家を出て、まずトロリーバスに乗り、6時すぎにはウラジオストク港の鉄道駅に着いた。6時半、ロシア語でエレクトリーチュカとよばれる電車に乗り、11時にパルチザンスク(旧名スチャン)に着く。駅前にいたバスに飛び乗り10分ほど行くとアウトバクサル(バスターミナル)がある。ここから11時40分、ラゾー行きのバスに乗り2時40分ラゾーに着く。ラゾーへの道はかなり高い山ごえで、遠くまで広々とみわたせる高みまでバスはのぼっていく。バスはきわめてオンボロであるので、上り坂ではほとんど20-30 km/hしか出ない。ラゾーからすぐに3時発のバスに乗って1時間半行くと、ソコリチに着く。ここからはペンチン行きのバスに乗るがこれを途中下車しなければならぬ。ここから先、公の交通はなくなる。そこはラゾー地区とオリガ地区の境にあたるため、交通の便がきわめ

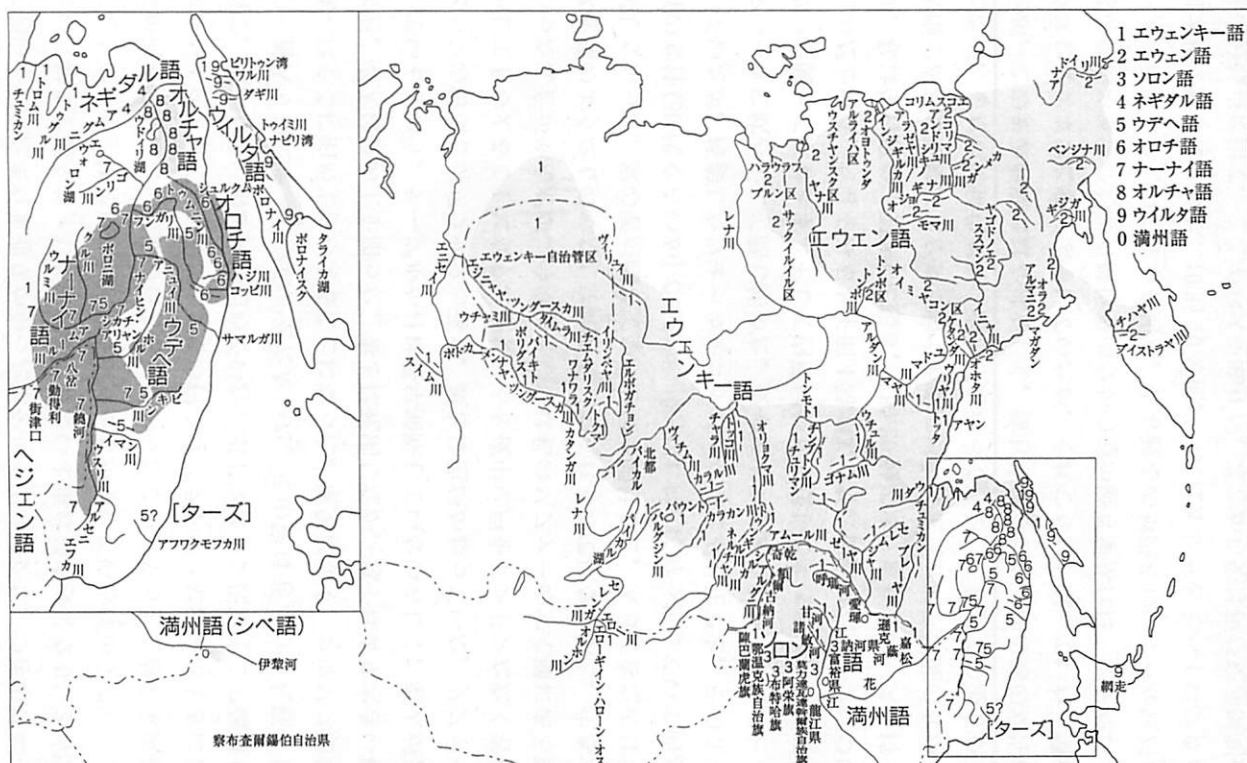


図3.1 ツングース諸語の分布(池上, 1989: 1060 をもとに作成)

て悪いのだ。たまたま通りかかった車をヒッチハイクし、つぎのダニーロボという村まで進んだ。しかしここでいよいよ車は通らなくなり、2時間待つこととなった。道には放牧されたウシたちが歩いているばかりでいっように車が通る気配はない。夏の日も暮れかかったころ、やっと1台の家族連れの車をハイクすることができ、つぎの村ミログラドヴァに着いたときにはまっ暗で、しかも強い雨が降り始めていた。ポドマスキ氏はそので躊躇せず村の一番入り口にあった家の戸をたたいた。その家は老人の一人暮らしで、我々はそこに泊めてもらえることになった。電気はなく、ロウソクの灯りのもと、老人は身の上を語った。妻とは死別したが、息子はより大きい村で働いているという。テーブルかけは長年掃除していないらしく、老人が裏返すとパンの粉などがザラザラと落ち、裏とは色がかわっていた。ソファーに寝かせてもらえることになり、寝ていると夜中に戸をドンドンたたく者がある。いったん音がやんだが、今度はそいつは私のソファーのすぐ横にある窓ガラスを棒のようなものでたたき始めた。割られるのではないかと、生きた心地がしなかった。家の者が起きてやっと戸を開けると、入ってきたのは年齢不詳の女性(50代ぐらいか)であった。彼女はすでに酔っ払っていて何かわめいていたが、持参したウォッカをコップになみなみと注ぐと、その3/4ほどをいっきに飲み干して話し始めた。夜半にトラがあらわれ、彼女のところのウシを襲って、骨と皮、そして内蔵ばかりを残してすべてたிரけてしまったのだという。時計をみると午前4時であった。彼女は延々トラについて語り、私は少し寝た。5時半に起き、6時20分のオリガ行きのバスを待った。大雨であるうえに、まだまっ暗である。バスは定刻どおりに闇のなかを出発したが、しだいに景色が青く浮かびあがってきた。これまでの道もひどかったが、この先の悪路ははなはだしく、激しく揺られた。前の席の女性は窓ガラスにゴンゴンと頭をぶつけていたが、それでもなお眠っていた。慣れているのであろう。ひたすら深い森のなかの道が続く集落はほとんどない。途中バスは何度となく川のなかを通り、人も渡るのが恐ろしいような穴だらけの丸太橋を渡ったりした。10時10分前、バスはオリガとミハイロフカに行く道の分岐点に出て、ここでバスを降りた。ここから先は再び交通機関がない。

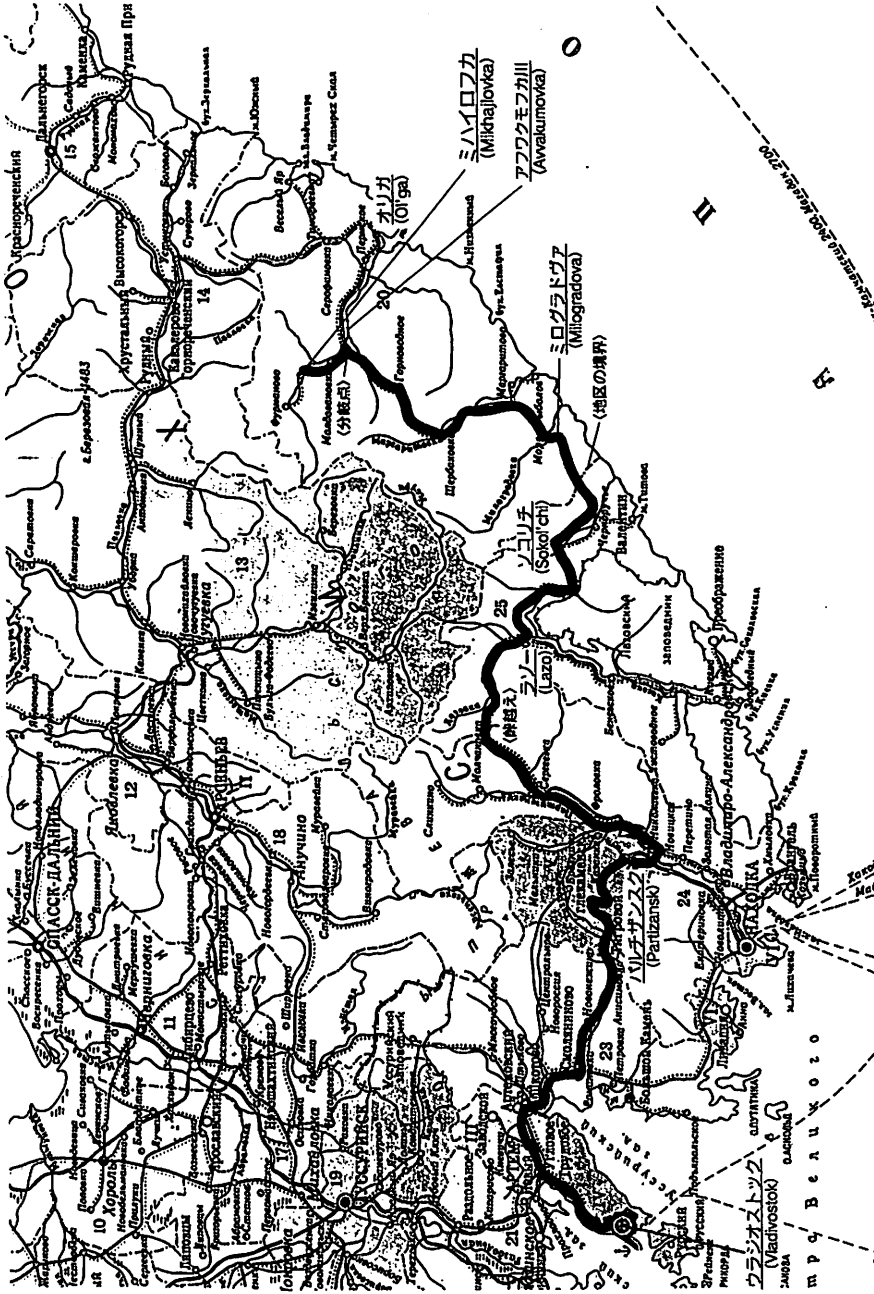


図 3.2 行程図



写真3.3 ミハイロフカ村の景色

森のなか、屋根だけのバス停で待つこと2時間、雨のなかやっと通りかかった車は村にパンを運ぶトラックであった。そこからは30分ほどでやっと念願のミハイロフカ村にたどり着いた(写真3.3参照)。

図3.2をみていただければわかるが、村はアフワクーモフカ川の上流にあり、そこから先は原始の山があるばかりのほとんどどんづまりのような村である。村は3本ほどの通りからなる細長い村で、そのまんなかにあるセル・サヴィエト(村役場)に我々はまず通された。村役場の裏にある電波中継機械室(屋根の上に大きなパラボラアンテナがついている)に泊まることになった。夜だけ電気が使え、水は近くの井戸から、食事は近くの家の方につくっていただくことになった。こうして村での調査が始まったのである。

調査中のエピソードと復路についても簡単にふれておく。私はそばアレルギーであるが、ほかにアレルギーはなく、日本にいるときは花粉症になることはない。しかしこの村では何らかの植物のために花粉症になった。夜や雨の日はよいのだが、晴れの日の昼間には際限なく鼻水が出て、当初はこの遠隔の地で風邪になったかとおおいに心配した。

村はこのときキュウリの収穫時期であつたらしく、食事は料理法こそ異なるものの、朝昼晩毎食キュウリであった。

週に1度だけ火曜日にはオリガからパルチザンまで直通のバスがある、という情報が入り、帰りはこれで帰ることになった。しかし最後にヒッチハイクした例の分岐点までは、村の車をチャーターしていく以外にない。1台の車と話をつけ、当日6時半に起きて我々は待ったが、誰も来ない。バスの来る20分前になってやっと男はあらわれ、「どうして電話しないのか」という。ポドマスキン氏は「どうやって電話しろというのだ、おまえの家の電話も、どこに家があるかも知らないのだ」と答えている。「ううむ寝すごしちゃったんだ、どうする、行くか、ひょっとしてバスが遅れるかもしれん」とのこととて、車を飛ばして行くことになった。分岐点に着くと男は「みろ！ 砂煙があがっている、バスは今行ったばかりなんだ」と叫んだ。飛ばして行くとたしかにバスがあらわれた。5分ほど追いかけたらどうか、エンジントラブルでバスは停車し、我々は無事乗りこむことができた。悪路は相かわらずで、

バスは川を渡り、山をこえつつも、8時間後にパルチザンスクに着いた。電車は2時間ほどなく、そこからもまだ道のりは遠かったが、その日の夜中にはウラジオストックに戻ることができた。

1.3 ターズの現状と文化

1.3.1 人口について得た情報

ミハイロフカ村の村役場によれば、1992年のミハイロフカ地区全体(Mikhajlovka, Furmanovo, Moldavanovka, Gornovodnoeの各村からなり、ミハイロフカの役場の管轄下にある)の人口は469人。そのうち北方少数民族は126人(その他はロシア人)で、その内訳は、ターズ104人、ゴリド16人、ナーナイ4人、ウデヘ1人、トゥヴァ1人であったという。

同じく94年のミハイロフカ地区の人口は435人、うち北方少数民族は140人、ターズ115人、ゴリド20人、ナーナイ3人、ウデヘ1人、トゥヴァ1人。

同じく95年のミハイロフカ地区の人口は437人、うち北方少数民族は123人、ターズ102人、ゴリド16人、ナーナイ3人、ウデヘ1人、トゥヴァ1人。なおGornovodnoe村にいるターズは1家族だけであるという。

ウラジオストックの沿海州に関する役所の統計によれば、ターズの総人口は1992年202人、1994年205人、1995年204人であり、Lazovskij rajon, Chugujuskij rajon, Ol'ginskij rajon, Ternejskij rajon, Kavalerskij rajonに分布するが、後ろふたつの地区にいるターズはそれぞれ1家族だけであるという。

1.3.2 インフォーマントに関する情報

以下が私の会うことのできたターズ語およびゴリド語の話者の一覧である。生年が1910年から1942年にわたっていることからわかるように、1995年の調査当時の話者の年齢は85歳から53歳であった。この世代でもターズ語の単語が思い出せない場合が多々あった。やはりここでもソビエト革命後に教育を受けた人々における少数民族語保持の状況はきわめて悪いとみなすこ



写真 3.4 Ulasi, Kiril Ivanovich



写真 3.5 Ulasi, Ekaterina Semjonovna



写真 3.6 Utaskichudzu, Valentina



写真 3.7 Zakharenko, Nina Mikhajlovna.
ゴリド

とができる。なお、全員がロシア語とのバイリンガルであった。

・Ulasi, Kiril Ivanovich, 1926 年, Nikolajvka 村(アフワクーモフカ川の下流にある)生まれ(写真 3.4)。

・Ulasi, Ekaterina Semjonovna, 1926 年生まれ(写真 3.5)。上記 kiril 氏の妻である。

・Utaiskichudzu, Valentina, 1910 年, Bargarita 村生まれ(写真 3.6)。1958 年にミハイロフカに来た。

・Pustovit, Ljubov' Mikhajlovna, ゴリド。1939 年, チュグルスキー地区のサンダゴウ(現 Bulyga-Fadeeva)村生まれ。1951 年ミハイロフカへ。

・Zakharenko, Nina Mikhajlovna, ゴリド。旧姓 Lüchansin(父の名)。サンダゴウ生まれ(写真 3.7)。

・Ulaishi, Nadezhda Andreevna, 1934 年, ゴリド。チュグルスキー地区生まれ。1951 年にミハイロフカへ。

・Utaisin, Vasilij Ivanovich, 1938 年, Staryj Petropavrovka 村生まれ。1953 年にミハイロフカに来た。

・Fujansun, Nina Vasil'evna, 生年など確認できず。

・Sy, Vladimir Vasil'evich, 1929 年, カワレーラバ村生まれ。

・Baganova, Nadezhda Vasil'evna, 1942 年, ミハイロフカ生まれ。

1.3.3 ターズの名字について得た情報

以下は村役場の台帳である S. Mikhajlovka, pokhozajstvennaja kniga No. 1 na 1949 1950 1951 gg. osnovnyx proizvodotvennykh pokazatelej khozjajstov kolkhoznikov による。以下における 2 桁の数字 xx は, 19 xx 年生まれであることを示す。左欄が名字である(キリル文字からの転写による)。

Kyn Tsyn	00
Lan	13
Fu Jan Sun	24, 48, 50
Lan	14, 32, 33, 37, 39, 43, 49
Fu Jan Sun	51

Tin'-Ju	05, 29, 48
Sibo	07
Tiju	17
Sev So	21
Fujansun	30, 48
Kyn Tsyn	28, 38
Sim'-Ju	20
Sev So	50
Ljubitsin	1886
Ljuzmin	1897
Ulajsi	1885, 04, 32, 39, 41
Syr	1897, 00, 29, 31
Wan chu ni	17
Fujansun	1885, 05, 23, 32, 33, 34, 36, 37, 40, 41, 43, 46
Ka-in	24
Fujansun	21, 44, 48
Funzaj	17, 23, 30, 34, 39
Kosony	29, 48
In	09, 24, 29, 32, 40, 42, 48
Tsun dicho	05, 30, 34, 41, 47
Tsun	20, 48, 51
Syr	27
Khajsun	04
Chivailun	17, 31
Tsundicho	14, 19, 36, 50
Chajun	1891, 1899, 28, 32, 34, 40
Jukhaj	1889
Khajsun	12
Tiju	06, 40, 51
Tidamo	13, 35
Janshubin	1876

1.3.4 ターズの民話

Valentina Utaiskichudzu 氏よりターズ語でターズの民話をひとつ録音することができた。しかしこの聞き取りおよび表記は非常に難しく、ターズ語で書き取ることは断念した。Kiril Ivanovich Ulasi 氏の協力により明らかにすることのできたこの民話のあらすじは、以下のようなものであった。

甘くておいしいので、自分の本当の子どもにはメロンとスイカを食べさせ

て育てた。みなし子拾ってきて育てていたのへは、辛くてまずいタマネギばかりを食べさせた。結局自分の子はやせてだめな子になってしまったが、実の子ではない方は丈夫なよい子に育った。

1.3.5 断片的な民族学的情報

以下は私自身の得た断片的な民族学的情報である。

(1) 出産について (V. Utiskichudzu 氏による)

出産のとき、妊婦は声をあげてはいけない。後産は地面に埋める。新生児の名前は1カ月後につける。

(2) 漢語(中国語)について (N. V. Baganova 氏による)

3年前(1992年)に中国人が朝鮮人参を買いにきた。彼らのいうことはほとんど理解できたが、地名や社会制度の名称など、わからない語もたくさんあった。

(3) 葬礼について (V. I. Utaisin 氏による)

死者や棺桶には陽があたらないようにした。昔は2mも掘らずに、死者は地面に浅く埋めた。紙を切って穴をあけ、棒に掛けた(?)。死者の衣装としては、白い帯と白い鉢巻があった。死者の家族や子どもも白い帯をするが、両親とも亡くなった場合には帯の両端の長さをそろえる。片親がまだ存命である場合には、長さをそろえない。7日ごとに七回忌を行ない、その最初と四十九日には村人皆をよぶ。ここではブタを殺して食べる。1, 2, 3年目と、100日目に回忌を行なう。

(4) 年中行事について (V. I. Utaisin 氏による)

新年は新月の日に祝い、夜12時に餃子を煮始める。地面にまいて神にさげ、それから自分たちが食べる。十二支があることは知っているが、全部は知らない。漢字は村の者は誰も読めない。ロシア文字は読める。

七夕伝説を知っている。祖母から聞いた。妻と2人の娘が銀河の向こうにいて、向こう岸にかんざしを投げたという伝説である。

ヨーロッパノイバラ(?) ロシア語で shipovnik) の実が赤くなるとサクラ



写真 3.8 かつての朝鮮人参栽培場跡地

マスが川を遡上してくる。

(5)朝鮮人参について(V. I. Utaisin 氏による)

昨今ではみつけしだいにすぐに朝鮮人参を掘ってしまうが、昔の老人たちは6枚から最高10枚ぐらいいは葉がつかないうちには掘らなかった。棒を横の地面に差しおけば誰もそれをとったりはしなかった。朝鮮人参のそばには必ずセイヨウスギがあるが、朝鮮人参のある方の側の樹皮を四角くはいでいた(写真3.8参照)。

1.4 ターズの言語

1.4.1 基礎語彙

以下の基礎語彙は、アジア・アフリカ言語文化研究所(1966, 1967)におけるA項目(200語)とB項目(300語)の合計500語を、ロシア語を媒介言語として調査したものである。表の左欄の番号はこの調査表の番号であり、一部とばした単語もある。また質問によっては解答が得られなかったものもある。右欄には同調査表にあった現代中国語の語形をあげた。

中欄が調査したターズの単語であり、とくに印のないものはUlasi, Kiril Ivanovich氏による。時間などの都合から、名詞に限ってではあったが、「ゴリド」の言語およびその「ターズ」語との違いを調べるために、ゴリドを自称するUlasi, Nadezhda Andreevna氏からも基礎語彙を調査した。氏より得た語には(nau)と略号を付した。(=nau)とあるものは上記2人のインフォーマントが、同じ語を答えた場合である。

ターズ語の語形はテープによる録音から書き起こしたものである。なお本章に発表したターズ語はすべて録音資料があり、私のもとに保存してある。ターズ語には文字がないので、本来なら発音記号により表記すべきであったかもしれないが、この言語が事実上漢語の一方言であることから、比較の便宜も考え現代中国語の拼音を用いて表記することにした。対応する漢字が調べられたものはこれも示した。

後述するが、北京宮話と違い、反り舌音はほとんど反り舌化していない。していてもわずかであるが、これを「*」で表記した。+のマークは顕著な鼻

音化を示す。o, u, もしくはaが(o), (u), (a)のように()でくくってある場合は、やはりわずかにその音が聞かれることを示す。Gは有声軟口蓋摩擦音[y], Eはあいまい母音[ə]を示す。ふたつ以上の異なった音声、もしくは形式が聞かれた場合は「/」の前後に示した。(r)は弱い儿化を示す。声調は数字で示した。数字のないのは轻声である。

聞き取りおよび漢字の推定に際しては、山東省出身の留学生蕭龍氏の協力を得た。なおターズたち自身は、漢字をいっさい知らないことに留意された

1	あたま(頭)	nou3dei4(=nau)	nao3dai4 脑袋
2	かみのけ(髪の毛)	tou2pa tou2fe+(nau)	tou2fa 头发
3	ひたい(額)	yang2guagei4zi 阳瓜 盖子 (nau)では違うというが、 覚えていないという	nao3menz2 脑门子
4	まゆ(眉)	yan3mei4 眼眉(=nau)	mei2 眉
5	め(目)	yan3jing(r)4(=nau)	yan3jing 眼睛
6	なみだ(涙)	yan3lei4(=nau)	yan3lei4 眼泪
7	みみ(耳)	er2d(o)u4/er2dou r(i)2dou4(nau)	er3duo 耳朵
8	はな(鼻)	bi2zi	biz2 鼻子
9	くち(口)	zui3(=nau)	zui3 嘴
10	くちびる(唇)	zui3pir2 皮(nau)	zui3chun2 嘴唇
11	した(舌)	s*e2tou(=nau)	she2tou 舌头
12	つば(唾)	tu(o)4mie 吐沫 tu4m(i)e+(nau)	tuo4mo 唾沫
13	は(歯)	ya2(=nau)	ya2 牙
14	あご(顎)	yan4kou3 zui3ba4zi(nau) 嘴巴子	xia4ba 下巴
16	ひげ(髭)	出なかった	hu2xu1 胡须
17	かお(顔)	lian3(=nau)	lian3 脸
18	くび(首)	be2zi(=nau)	boz2 脖子
20	かた(肩)	bang3zi jiang1bang3zi(nau)	jian1bangr3 肩膀儿
21	せなか(背中)	s*eng4 身(体) jilin1gan3zi 膀子	ji3liang, bei4 脊梁, 背
22	こし(腰)	kua+4kua+胯	yaol 腰

23	しり(尻)	pi4hu+(=nau) 屁股	pi4gu 屁股
24	むね(胸)	xing1pu2zi 心肺子 xing2pu3zi(nau)	xiong1pu 胸脯
25	ちぶさ(乳房)	nai3pang2zi 奶盘子	ru3fang2 乳房
26	はら(腹)	du4zi(=nau)	duz4 肚子
27	へそ(臍)	du4qi2zi	du4qi2 肚脐
29	ひじ(肘)	sou2guai3zi 手拐子(=nau)	ge1beizhou3 胳膊肘儿
30	て(手)	s*ou+3	shou3 手
32	つめ(爪)	z*i3tou2gai4 指头盖 zilzigai4(nau)山東では 幼児語, 女性語で使われ るのではないかという, 蕭龍氏による	zhi3jia 指甲
33	あし(足)	tuei3(=nau) jiou3(nau)	tui3, jiao3 腿, 脚
34	ひざ(膝)	tueir3gai4 腿儿盖 buoz1gai4 bo2ligai3(nau)	xi3gai4 膝盖
35	かんぞう(肝臓)	gan1hu 肝腑 gan1fu(nau)	gan1 肝
36	しんぞう(心臓)	xin1(=nau)	xin1zang4 心脏
37	はらわた(腸)	c*ang2zi(=nau)	chang2 肠
38	ひふ(皮膚)	pi2, yu4pi(3) 魚皮	pi2fu1 皮肤
39	あせ(汗)	han4(=nau)	han4 汗
40	あか(垢)	ni2	ni2gou4 泥垢
41	うみ(膿)	neng2	nong2 脓
43	あぶら(脂)	pang4 胖	zhi1fang2 脂肪
44	ち(血)	xie3	xue4 血
45	ほね(骨)	gu2t(o)u gu2tou(4) (nau)	gu2tou 骨头
46	にく(肉)	y(o)u4	rou4 肉
47	からだ(体)	s*en3zi 身子	shen1ti3 身体
48	びょうき(病気)	y(o)u3bing4 有病	bing4 病
50	くすり(薬)	y(o)u4(=nau)	yao4 药
51	こめ(コメ)	jing1mi3 精米	mi3, da4mi3 米, 大米
54	あぶら(油)	y(o)u+3 you2(nau)	you2 油
55	さけ(酒)	jiu+3(=nau)	jiu3 酒
56	タバコ	yan1 yan4(nau)	yan1 咽
57	あじ(味)	xiang1 香	wei4dao4 味道
58	におい(匂い)	y(o)u3wei4 有味儿	xiang1wei4 香味儿

59	たべもの(食べ物)	fan4	shi2wu4, liang2shi 食物, 粮食
60*	にく(肉)	y(o)u4	rou4 肉
61	たまご(卵)	ji1dan4(=nau)	danr4 蛋儿
62	にわとり(鶏)	ji1	ji1 鸡
63	とり(鳥)	qier3 雀儿	niao3 鸟儿
64	つばさ(翼)	bang3 jilbang3(nau)	chi4bang3 翅膀
65	うもう(羽毛)	出なかった	yu3mao2 羽毛
66	す(巢)	q*iao2wor4 jilwor4 jilwor2/3(nau)	wol 窝
67	くちばし(嘴)	出なかった	niao3zui2 鸟嘴
68	つの(角)	niu2jia3(=nau) yang2jia3(nau) lu4jia3(nau)	jiao3 角
69	うし(牛)	ni(o)u2	niu2 牛
70	ナイフ	doulzi xiao2dou3zi (nau)	xiao3dao1 小刀
71	かたな(刀)	dou1(=nau) jian4dou3(zi)はさみ (nau) buo4dao3 斧(nau) 撃刀	dao1 刀子
73	ぼう(棒)	gun4zi	gan1, gunz4 竿子, 棍子
74	ゆみ(弓)	出なかった	gong1 弓
76	やり(槍)	出なかった	qiang1 枪
77	いと(糸)	xian4	xian4 线
78	はり(針)	z*in1(=nau)	zhen1 针
79	きもの(着物)	yi1ha+衣服/衣行, yilEn	yi1fu 衣服
80	かみ(紙)	z*i3	zhi3 纸
81	もの(物)	dong1xi	dong1xi 东西
82	へび(蛇)	c*ang2cung 长虫 c*ang2cong(nau 曰く, ターズの語であるとい う) liu4zi(nau 曰く, ゴリド の語であるという, 山東 方言では溜子)	she2 蛇
83	むし(虫)	c*ong2zi(=nau)	chongz2 虫子
84	はえ(蠅)	出なかった, ロシア語で いうという	canglying 苍蝇
85	か(蚊)	出なかった, ロシア語で いうという	wenz2 蚊子

86	のみ(蚤)	tiaor4z(a) o tiao4zi	tiao4zao 跳蚤
87	しらみ(虱)	s*ilzi	shiz1 虱子
88	あり(蟻)	ma2yi+ (=nau)	ma3yi3 蚂蚁
89	さかな(魚)	yu4	yu2 魚
90	かい(貝)	出なかった	bai4 貝
91	どうぶつ(動物)	出なかった	dong4wu4 動物
92	りょう(猟)	da3wei2 打围 (=nau)	shou4lie4 狩猎
93	あみ(網)	wang3 (=nau)	wang3 网
94	いぬ(犬)	gou+3 (=nau)	gou3 狗
95	つな(綱)	s*eng2zi 縄子 (=nau)	suoz3 索子
97	ひつじ(羊)	yang2	yang2 羊
98	うま(馬)	ma2 (=nau)	ma3 馬
99	ぶた(豚)	z*u1 (=nau)	zhu1 猪
100	しっぽ(尾)	yi3ba (=nau)	wei3ba 尾巴
102	けがわ(毛皮)	pi2 (=nau)	mao2pi2 毛皮
103	ふくろ(袋)	ma2dei4 麻袋 (=nau)	kuo3dai4 口袋
104	なべ(鍋)	meng2guan4 闷罐 guo3 (=nau)	guo1 鍋
105	かま(釜)	da4guo3 (=nau)	guo1 鍋
108	やね(屋根)	fang2gair4 (=nau)	wulding3 屋顶
109	かべ(壁)	qiang2 (=nau)	qiang2 墙
110	まど(窓)	c*uang1hu+4 (=nau)	chuang1 窗
111	とびら(扉)	men2	men2 门
112	いえ(家)	fang2zi(nau) 曰く、漢語 であるという jial(nau) 曰く、ゴリド の語であるという	jial, fangz2 家, 房子
113	くるま(車)	c*i4c*e2 汽车 (=nau)	che1 車
114	ふね(船)	c*uan2 (=nau)	chuan2 船
115	いど(井戸)	s*ui2jing3 (=nau)	jing3 井
116	しごと(仕事)	gan4huor2 干活	gong1zuo4 工作
117	かね(金)	qian2 yi4bei3, er4bei3 百, san1bei3, si4bei3qian3	jinqian2 金钱
118	き(木)	s*u4	shu4mu4 树木
120	えだ(枝)	s*u4yar1zi 樹丫儿子	shu4zhi1 树枝
121	くさ(草)	cou3 (=nau)	cao3 草
123	ね(根)	s*u4genr1zi s*u4gen1zi(nau) genr1zi (=nau)	genr1
125	はな(花)	huar1 huar3(nau)	huar1 花儿
126	み(実)	出なかった	guo3shi2 果实

128	じゅひ(樹皮)	s*u4pi2	shu4pi2 树皮
129	た(田)	yuan2zi (=nau)	shui3tian2, tian2di4 水田, 田地
131	もり(森)	s*u4	sen1lin2 森林
132	みち(道)	dou4 (=nau)	ma3lu4, dao4lu4 马路, 道路
133	あな(穴)	yar3 眼儿 (=nau)	kullong 窟窿
134	はし(橋)	qiou2 (=nau)	qiao2 桥
135	かわ(川)	he2 (=nau) xiao2he1(nau) da4he1(nau)	he2, jiang1 河, 江
136	やま(山)	s*an3 san4(nau)	shan1 山
137	の(野)	di4	tian2di4 田地
140	みずうみ(湖)	sui3keng1zi 水坑子 sui3kao+ng4zi(nau)	hu2 湖
141	うみ(海)	hai2 (=nau)	hai3 海
142	しま(島)	出なかった	dao3, hai3dao3 島
143	みず(水)	s*ui3	shui3 水
144	こおり(氷)	bing1 (=nau)	bing1 冰
145	いし(石)	s*i2tou (=nau)	shi2tou 石头
147	すな(砂)	s*a2zi s*a4zi(nau)	shaz1 沙子
148	ほこり(埃)	ni4 泥	huilchen2 灰尘
149	けむり(煙)	mou4yan1 冒煙 (=nau) yanr1(nau)	yan1 烟
150	はい(灰)	xiao3hui1 小灰 (=nau)	hui1 灰
151	ひ(火)	huo3 huo(r)2 (=nau)	huo3 火
152	かぜ(風)	heng4 feng4(nau)	feng1 风
153	くも(雲)	tian1s*ang, yun4cai 天 上, 云彩 yun2cai(nau)	yun2cai 云彩
154	きり(霧)	huang4wu4 黄雾 wu4(nau)	wu4 雾
155	あめ(雨)	xia4yu3	yu3 雨
156	ゆき(雪)	xue3	xue3 雪
157	そら(空)	tian1	tian1(kong1) 天(空)
158	にじ(虹)	c*u3gang4 出扛 gang4(nau)	jiang4, hong2 虹
159	たいよう(太陽)	yu4tou 日头 yi4tou(nau)	tai4yang 太阳
160	つき(月)	yue4liang (=nau)	yue4liang 月亮

161	かげ(影)	出なかった	yingz3 影子
162	ほし(星)	xingrlxing xi+nglxi+ng(nau) san2xi+ngr(4)(nau) 閃星 キラキラしている星, 空 にあるもの皆 sanglhe2(nau) 桑/閃(? 空の意)河 銀河のことだという	xinglxing 星星
163	ひ(日)	yi4tian1	ri4, tian1 日, 天
165	しゅう(週)	yilge li3bei4 礼拜	xinglqil 星期
167	とし(年)	yi4nian2	nian2 年
168	あさ(朝)	zao3xiang4 zao3qian4(nau) 早晨	zao3shang4 早上
169	ひるま(昼間)	bai2tian1 bai2tian(4)(nau)	bai2tian1 白天
170	ゆうがた(夕方)	xia4wanr3 下晩(=nau)	bang4wan3 傍晚
171	よる(夜)	xia4wanr3	wan3shang4, ye4li 晚上, 夜里
172	きのう(昨日)	zuo(r)2ge 昨个(=nau)	zuo2tian1 昨天
173	あす(明日)	mi(e)+(r)4ge 明个 mierlge(nau)	ming2tian1 明天
174	きょう(今日)	jie(r)lge j(i)erlge(nau)	jintian1 今天
175	いま(今)	ji(e)+4ri 今日	xian4zai4 現在
177	なんじ(何時)	ji2dian3z*ong	ji3dian3zhong 几点钟
179	いち(一)	yi2ge	yil, yilge 一
180	に(二)	liang2ge	er4, liang3ge 二
181	さん(三)	sanlge	san1, sanlge 三
182	し(四)	si4ge	si4, si4ge 四
183	ご(五)	wu2ge	wu3, wu3ge 五
184	ろく(六)	liu4ge	liu4, liu4ge 六
185	しち(七)	qi(r)2ge	qil, qilge 七
186	はち(八)	ba2ge	bal, balge 八
187	きゅう(九)	jiu(r)2ge	jiu3, jiu3ge 九
188	じゅう(十)	s*i2ge	shi2, shi2ge 十
190	ひゃく(百)	yi4bai3 yilbei3(nau)	yi4bai3 一百
191	いくら	ji3ge, ji3geyir3 几个 (人) ji3ge niu2 牛, ji3ge yang2	duolshao 多少

	羊	
193	はんぶん(半分)	yi2banr4, yi2bei+(nau) ba(n)1/4la3 半拉(nau)
194	ぜんぶ(全部)	yi4dui 一堆(たくさん, 一山)
195	いくらか	ji2tian1 几天
197	とし(年)	ji3sui4
199	おっと(夫)	zang3gui4(di+) 掌柜的
200	つま(妻)	(wo2di)lao2puo
201	けっこう(結婚)	出なかった
202	ちち(父)	die3 die1die(nau)
203	はは(母)	ma3/1
204	そふ(祖父)	lao3tour1 lao3tour(4)(nau)
205	そぼ(祖母)	lao3pe1
206	むすこ(息子)	xiao3zi
207	むすめ(娘)	yalt(o)u(3) Y頭, (nau 曰く, ターズの言葉) xiao3yalt(o)u gulniang(nau 曰く, ゴ リドの言葉)
208	こども(子供)	xiao3hair4 xiao3hei2(nau)
209	こ(動物の子)	xiao2ma3zair3 小馬仔 儿 xiao2zair3(nau) gou2zair3 狗 niu2zair3 牛(=nau) mao2zair 猫(=nau)
210	まご(孫)	sun1zi(=nau)
211	あに(兄)	da4ge1(=nau)
212	あね(姉)	da4jie2(=nau)
213	おとうと(弟)	er4xio(u)ng1di, xiung1di(nau)
214	いもうと(妹)	er4jie2, mei4zi(nau)
218	ともだち(友達)	peng2yu
219	けんか(喧嘩)	ma3za+4 骂仗
220	ちから(力)	(y(o)u3)jingr4 劲(= nau)
221	おし(啞)	ya3ba
		yi2banr4 一半儿
		quan2bu4, quan2dou1 全部, 全都
		yi4xie1, yi4diar3, ji3ge 一些, 一点儿, 几个
		sui4shu4 岁数
		zhang4fu 丈夫
		qiz1 妻子
		jie2hun1 结婚
		fu4qin 父亲
		mu3qin 母亲
		zu3fu2 祖父
		zu3mu3 祖母
		erz2 儿子
		nu3er2 女儿
		haiz2 孩子
		zair3 仔儿
		sunz1 孙子
		gelge 哥哥
		jie3jie 姐姐
		di4di 弟弟
		mei4mei 妹妹
		peng2you 朋友
		chao3jia4 吵架
		li4liang 力量
		ya3ba 啞巴

222	つんぽ(聾)	long2zi	longz2 聾子
223	めくら(盲)	xialzi	xiaz1 瞎子
224	おとこ(男)	lao3ye2men(r) (=nau)	nan2ren 男人
225	おんな(女)	lao3puo(4) oは弱い(=nau) lao3puo2/3は老婆の意(nau)	nu3ren2 女人
226	ひと(人)	yin4 yir4(nau)	ren2 人
227	わたし(私)	wo3	wo3 我
228	あなた	ni3	ni3 你
229	かれ(彼)	ta1	ta1 他
237	だれ(誰)	ta1s*i sei2	shui2 谁
243	ことば(言葉)	hua4	yu3yan2, hua4 语言, 话
244	こころ(心)	出なかった	xin1 心
245	かみ(神)	出なかった	shen2 身
246	まつり(祭)	guo4j*ie2 过节	jie2ri4, miao2hui4 节日, 庙会
247	むら(村)	teng2zi 屯子	cun1 村
248	まち(町)	出なかった	zhen4, jielshang 镇, 街上
249	これ	z*ei4wanr2yir(4) 这儿 玩艺 z*eige qin2meyu2	zhe4(ge) 这个 zhei4geshen2me yu2 这个什么鱼
250	それ	nei4ge	na4(ge), ta1 那个, 他
251	あれ	nei4ge	na4(ge) 那个
266	ひだり(左)	z*uo4sou(=nau) 左手 zuo4miar 左面儿	zuo3 左
267	みぎ(右)	y(o)u4sou(nau) 右手 y(o)u4 miar 右面儿	you4 右
268	まえ(前)	wang1(4)qian2 qian2zou3(nau)	qian2bian2 前边
269	うしろ(後)	wang4h(o)u4 hou4(nau)	hou4bian1 后边
270	うち(内)	zai2litou4 在里头 li2bianr(nau) li2tour(1)(nau)	li3bian1 里边
271	そと(外)	s*ang2wai4bian 上外边 wai4bianr(nau) wai4tou(nau)	wai4bian1 外边
272	あいだ(間)	danlyao4	jian1 间
273	うえ(上)	wang3shang4 往上 sang4(nau)	shang4 上
274	した(下)	wang3xia+4 xia4(nau)	xia4 下

275	みる(見る)	wang3qian2kan4, wang3h(o)u4kan4	kan4 看
276	みせる(見)	gei2ni kan4kan	gei3kan4 给看
277	きく(聞)	ting1zou 听着	ting1 听
278	かぐ(嗅)	wen2wen	wen2 闻
279	いきをする(呼吸)	c*uang3qir4 喘气	hu1xi1 呼吸
280	いう(言)	(ta1) s*uo3	shuo1 说
281	よぶ(呼)	jiao4ni3	jiao4 叫
282	さけぶ(叫)	jiao4	han3 喊
283	うたう(歌)	(ta1) c*ang4	chang4 唱
284	おどる(踊)	tiao4di4bar3 跳地板儿	tiao4wu3 跳舞
290	かむ(噛)	you2ni3 咬你	yao3 咬
291	わらう(笑)	(ta1) xio4	xiao4 笑
292	なく(泣)	(ta1)kuu+1	ku1 哭
293	よろこぶ(喜)	le4he 乐喝	huan1xi 欢喜
294	こわがる(怖)	hai3pa4	hai4pa4 害怕
295	かなしむ(悲)	出なかった	shang1xin1 伤心
296	おこる(怒)	(ta1)y(o)u3qi4 有气	sheng1qi4 生气
297	おどろく(驚)	出なかった	chiljing1 吃惊
298	うつ(打)	(ta1)da3	da3 打
301	なおす(治)	z*a2h(o)u bing4 扎无病(?)	zhi4(bing4) 治病
302	なおす(直)	bu3yilhan4	xiu1li4 修理
303	なげる(投)	leng1le 扔了	shuail, reng1 摔, 扔
306	くだく(碎)	da2liang3ba(n)r4 打两瓣儿	nong4sui4, po4sui4 弄碎, 破碎
307	こわれる(壊)	huei4le	huai4 坏
308	おす(押)	tuei4le	tui1 推
309	ひっぱる(引張)	zui4le	la1 拉
310	もつ(持)	(ta1) tei2qi 抬起	na2 拿
311	つかむ(掴)	z*uallei(4)	zhual 抓
312	さわる(触)	peng4ni(3) 碰(你)	chu4, jielchu4 触, 接触
313	こする(擦)	c*eng4 蹭	ca1 擦
314	かく(搔)	nou2ni 挠(你)	sao1, nao2 搔, 挠
315	ふくれる(膨)	z*eng3le 涨了	zhang3 张
316	あるく(歩)	(ta1) wang3 qia+2 z(o)u3	zou3 走
317	ふむ(踏)	cai2ni 踩(你)	ta4 踏
318	はねる(跳)	beng4 蹦	tiao4 跳
319	はしる(走)	(ta1) pao+3	pao3 跑
320	ける(蹴)	tilni	ti1 踢
321	たつ(立)	(ta1)z*an3z*e	zhan4 站
322	すわる(座)	z*uo4z*e	zuo4 坐

323	はう(這)	pa+2	pa2 爬
324	ねる(寝)	(tal)tang3z*e	shui4jiao4, tang3 睡觉, 躺
325	ねむる(眠)	(tal)sui3ji(o)u4	shui4jiao4 睡觉
326	さめる(覚)	sui4gour+4le 够 「十分に寝た」の意	xing3 醒
327	おきる(起)	qie3lei(4) 起来	qi3(lai2) 起来
328	たべる(食)	ci1h(u)an4	chi1 吃
329	のむ(飲)	(tal)hel3sui3	he1 喝
330	よう(酔)	helz*ui4le	helzui4 喝醉
331	うえる(飢)	ai/ei3Ger4 挨饿	e4 饿
333	このむ(好)	xiang2ni 想(你)	xi3huan 喜欢
334	きらう(嫌)	bu4 xiang2 ni	yan4wu4 厌恶
335	くさる(腐)	luang4le 烂了	fu3bai4 腐败
336	わる(割)	pi3 劈	nong4sui4, pilkail 弄碎, 劈开
337	とぶ(飛)	(tal)h(u)eil	fei1 飞
338	およぐ(泳)	hu4 浮	you2yong3 游泳
340	しずむ(沈)	yang3s(o)e 淹死	chen2 沉
341	さく(裂)	wai3kai4 掰开	si1 撕
342	さける(裂)	wai3kai4	lie4kai 裂开
345	やく(焼)	(tal)jian3 煎	kao3, shao1 烤, 烧
346	にる(煮)	z*u4huan4 煮饭	zhu3 煮
347	おう(追)	nian3 撵	zhui1, gan3 追, 赶
348	にげる(逃)	出なかった	pao3 跑
349	ころす(殺)	(tal) da2 s*i ni3 打死	sha1si3 杀死
350	むすぶ(結)	j*i4ha+ 结上	ji4, jie2 结
351	ほどく(解)	gai3kai 解开	jie3kail 解开
352	はなす(放)	huang4kai	fang4 放
353	ぬう(縫)	hong2ha+ 缝上	feng2 缝
354	あらう(洗)	xi3	xi3 洗
356	きる(着)	(ta)c*uan1 yilh(o)En	chuan1 穿
357	ぬぐ(脱)	tuo3xialei(4) 脱下来	tuol 脱
358	かく(書)	xie3ha+(4) 写上	xie3 写
359	よむ(読)	nian4s*ul	kan4, du2 看, 读
360	おしえる(教)	(dui4ni)xio2 对你学(教わる)	jiao1 教
361	きる(切)	qie3cai4 切菜	ge1, qie1 割, 切
362	つくる(作)	(tal)huo4(mian4) 和面	zuo4 作
363	あける(開)	kailmen2	kail, da3kail 开, 打开
364	しめる(閉)	guan1men 1 声は低く少し下がる	guan1 关
365	すむ(住)	z*u4z*e	zhu4 住
366	はたらく(働)	gan4huor2	zhu4huo2, lao2dong4 做活,

		劳动
367	つかれる(疲)	lei4 累 lei4dihEn 累得很 l ははじき音で, l とも r ともつかない音, lei の e はあいまい母音的
368	やすむ(休)	xie2z*e xiulxi 休息
369	かう(買)	mai3 买
370	うる(売)	mai4 卖
371	える(得)	de2dao4, huo4de2 得到, 获得 z*ao2de dong1xi 着得东西(?)
372	ぬすむ(盗)	toul 偷
377	ふる(振)	yao2, hui1 摇, 挥 bai3hua4 摆豁(?)
378	とる(取)	cai3, qu3 采, 取 na2guolai 拿过来
379	ほる(掘)	wal 挖 kou1 掘
380	ながれる(流)	liu2 流 lwou4le 漏了
381	のぼる(昇)	shang4 上 wang2ji3qing2 往起挺
382	おりる(降)	xia4 下 huang4xia4
384	おちる(落)	luo4xia 落下 d(a)ou3xiar4 倒下
385	もえる(燃)	shao1 烧 z*ou3le
386	ふく(吹)	chuil, gual 吹, 刮 gua2heng1
387	あめがふる(雨降)	xia4yu3 下雨 xia4yu3
388	ぬれる(濡)	lin2 淋 s*i3le 湿了
389	かわく(乾)	gan1 干 gan1le
390	かくす(隠)	yan1gai4, (ba3~)cang2qi3 lai2 cang2qileile 掩盖, 藏起来
391	さがす(探)	zhao3 找 z*ao3ni
392	みつける(発見)	zhao3, zhao3zhao2 找到 z*ao3z*ou4 找着
393	かぞえる(数)	shu3 数 nian4s*u4, z*a2s*u4
394	うむ(産)	sheng1, chan3 生产 yang2xiao3hai2
395	うまれる(生)	sheng1 生 y(o)u2 xiao3hair4 有小孩儿
396	そだつ(育)	zhang3da4 长大 z*ang3qilai 长起来
397	しぬ(死)	si3le 死了 s*i3le
399	あそぶ(遊)	wanr2 玩儿 wa(n)r2
400	たすける(助)	bang1zhu 帮助 bang1z*e
401	まつ(待)	deng3 等 deng3z*eni
402	あう(会)	jian4mian4 见面 peng4zel(e) 碰着了
403	たたかう(戦)	da3zhang4 打战 da3z*ang4 打战
404	かつ(勝)	ying2 打胜, 赢 ying2le
405	まける(負)	bai4, shu1 败输 s*ulle
406	かんがえる(考)	xiang3 想 xiang3, xin1se 心事
407	わすれる(忘)	wang4 忘, 忘记 wang4le

408 おく(置)	ge2naha4 搁那哈儿	fang4, ge1 放, 搁
410 出る(出)	(tal)xiang3z*e zou3a 想着走	chul 出
411 はいる(入)	(tal)xiang3lai2le	jin4 进
414 あつめる(集)	s*ou2si 收拾	ji2, zhao1ji2, shoulji2 集, 召集, 收集
415 まぜる(混)	huo1le 和(かきまぜる) 了	hun4he2, chan1he2 混合, 搀 合
417 あう(合)	xiao3da4小大	he2shi 合适
418 あたえる(与)	gei2 ni3	gei3 给
420 おもう(思)	xing2s*e 心事	xiang3 想
421 しる(知)	z*ildou4	zhildao 知道
423 できる(出来)	(ta3)huei4	neng2, ke3neng2, hui4 能, 可能, 会
424 ある(存在)	z*ei4 y(o)u3 yu3(nau)	zai4 在
426 ない(無)	wo3mei4y(o)u3	mei2you 没有
427 おおきい(大)	da4	da4 大
428 ちいさい(小)	xiao(u)3	xiao3 小
429 たかい(高)	goul	gao1 高
430 ひくい(低)	ei3	di1, ai3 低, 矮
431 ふとった(太)	c*u1di 粗地	pang4 胖
432 やせた(瘦)	xi4di 细地	shou4 瘦
433 あつ(厚)	hou4di	hou4 厚
434 うすい(薄)	bao2di	bao2 薄
435 おも(重)	ceng2 沉	zhong4 重
436 かるい(軽)	qing1kui4 轻快	qing1, qing1kuai4 轻, 轻快
437 つよい(強)	y(o)u3jing4 有劲	qiang2 强
438 よわい(弱)	mei2you3jing4	ruo4 弱
439 いたい(痛)	y(o)u3bing4	tong4, teng2 痛, 疼
440 かたい(堅)	ying4	ying4, jian1 硬, 坚
441 やわらかい(柔)	yan3hu+(4) 软和	ruan3, rou2ruan3 软, 柔软
442 あまい(甘)	tian2	tian2 甜
443 しおから(塩辛)	xian2	xian2 咸
444 からい(辛)	lwa4	la4 辣
446 はや(速)	kui4	kuai4 快
447 おそ(遅)	men4	man4 慢
448 まる(丸)	yuan2yuan	yuan2 圆
449 するどい(鋭)	kuei4	rui4, kuai4 锐, 快
450 にぶ(鈍)	duen4	dun4 钝
451 なめらか(滑)	ping2hua+ 平	guang1hua2 光滑
452 まっすぐ(真直)	z*eng4de 正	zhi2 直
453 きれい(綺麗)	gan1jing(4)	hao3kan4, piao4liang 好看,

	漂亮	
454 きたない(汚)	mei2tei 莓体(「くさって いる」の意から。ただし 当て字, 完全な口語で字 はない)	zang1 脏
455 ながい(長)	c*a+ng3	chang2 长
456 みじかい(短)	dua+n3	duan3 短
457 とおい(遠)	ting2yuan3 挺远 tai4yuan3 太远	yuan3 远
458 ちかい(近)	jin4bian 近边	jin4 近
459 ひろい(広)	kuang3	kuang1 宽
460 せまい(狭)	z*ei3	zhai3 窄
461 あつい(暑・熱)	yie4 yie4yie	re4 热
462 さむい(寒)	leng3	leng3 冷
463 あたたかい(暖)	ye4hu 热和	nuan3huo 暖和
464 つめたい(冷)	liang2s*ui	lemg3 冷
465 わかい(若)	nian1qing	nian2qing1 年轻
466 としをとった(老)	laou2le	nian2lao3 年老
467 あたらしい(新)	xin1(fang2zi)	xin1 新
468 ふるい(古)	laou3(fang2zi)	lao3, jiu4 老, 旧
469 つねに(常)	出なかった	chang2, chang2chang2 常
470 いっぱい(満)	man3le	man3 满
471 おおい(多)	y(o)u3jis*i4 有几十, z*enlduo1 真多	duo1 多
472 すくない(少)	z*i+4s*ao3	shao3 少
474 あかるい(明)	liang4dang 亮堂	ming2liang4 明亮
475 くらい(暗)	heille	heilan4 黑暗
476 ひかり(光)	liang4z*e 亮着	guang1 光
477 しろい(白)	bai2di	bai3 白
478 くらい(黒)	heildi	hei1 黑
479 あかい(赤)	hong2di	hong2 红
480 あおい(青)	lan2di	qing1, lan2 青, 蓝
481 みどり(緑)	hualqi+3 発青	lü4 绿
482 きいろ(黄色)	huang2di	huang2 黄
483 いろ(色)	(hong2)cai3	yan2se, se4cai3 颜色, 色彩
484 うつくしい(美)	hao3kan4	hao3kan4, mei3 好看, 美
485 いい(良)	hao3di	hao3 好
486 わるい(悪)	huei4di	huai4 坏
488 おなじ(同)	yi2yangr4di	yi2yang4, tong2yang4, xiang1tong2 一样, 同样, 相同
489 ちがった(違)	bu4yi2yangr4di	bu4tong2 不同

490 ふたたび(再)	y(o)u4 laile 又	zai4 再
492 はい	dui4	shi4, shi4de 是, 是的
493 いいえ	bu2dui4	bu4 不
494 こんにちは	ni2hao3	ni3hao3 你好
495 さようなら・ありがとう	xie4xie	zai4jian4 再见

1.4.2 民俗語彙

基礎語彙をみただけでは、多少独自の語はあるにせよ漢語の方言の範囲内である。ナーナイ語やウデヘ語の残存は観察できなかった。このためもっとこの地域の生活との関係が密接であると考えられる魚名や動物名、植物名などの民族語彙を集めた。

ここでは調査表を用いず、インフォーマントの思いつくままにターズ語で魚や動物の名をあげてもらった。その際にロシア語でのよび名も同時に記録した。しかしここでもはっきりツングース系の語とみなせるものはみいだせなかった。なお右欄は漢語の語形である。

Kiril Ivanovich Ulasi 氏より得た語

サクラマス	qi3mu4yu2	
サケ	da2mo4ha4yu2 (大马哈魚)	
コクチマス, 満州マス	shi4li3yu3	
ピストリューシュカ (pestrushka, まだら模様の小さい魚, 和名不詳)	hua1ban3yu2 花鱅魚	
山ニジマス (gornyj farel')	galdayu2	
ナシ	li4guor1 梨果儿	li2zi
小さいリング	tang2li3zisu4	
エゾノウスミズザクラ	qiu4li3zisu4 秋梨子树	
千	yi4qian1	yi4qian1
一万	s*i2qian4, yi2wan(r)4 最初彼はこの語がわからなかったという	
中国語	z*ong1guo2hua4	
ターズ語	da2zihua4	
ロシア語	mao2zihua4	
日本語	yi4ben3hua4	

朝鮮語	gaollihua ウデヘ語やナーナイ語を さす言葉は出なかった	chao2xian1, 高麗gaolli4
モンゴル語	meng2guhua4	meng2gu3

Ljubov' Mixajlovna Pustavit' 氏より得た語

キャベツ	da4bei2cai4, da4tou2 bei2cai	
トウモロコシ	boulmi3	
ジャガイモ	tu3dour4	
マメ	huang2dour4 黄豆儿	
インゲン豆	bei2dour4 白豆儿	
エンドウ豆	qingr1dour4 青豆儿	
キュウリ	huang2guar 黄瓜儿	
唐辛子	hualjiour 花椒儿, la4 jiour 辣椒儿	
ピーマン	tian2jiour 甜椒儿	
ニンニク	yi2gecai4	
ネギ	c*ong3	cong1葱
ハツカダイコン/ラディッ シュ	sui2luo1ba	
イノンド/ウイキョウ	huei2xiang 茴香	
パセリ	xiang1cai 香菜	
セロリ? (sel'derej)	qing3cai 青菜	
シシウド	lao2san1qing 老三青	
ナシ	li3	
ブドウ	pu2tou	
オランダイチゴ	gaollian1guo2 高粱(?) 果	
メンドリ	mu2/3ji 母鸡	

Nina Vasil'evna Fujansun 氏より得た語

娘	yajige4	
ノミ	ge2tong3	
ナイフ	ga4wai/ga4wei (朝鮮語 だという)	
アメマス, ヒツパリマス	lou1guo1deyu3	
朝鮮人参	bang4tuei(3)	
かくれんぼ	c*ang1maor3 藏猫	
祭り用の草	hao4zi 債(?)徨	

メハジキもしくは益母草 (ヤクモソウ, ロシア語で pustyrnik)	
--	--

Vasilij Ivanovich Utaisin 氏より得た語

サケ	da4m(a)ha4	
サクラマス	ji1muyu2	
クロテン	tiao1pi3 貂皮	diao
生魚, 生肉	seng1yu2, seng1yu4	
ブドウ	pu2tou	
エゾノウスミズザクラ	c*oulli3zi 秋梨子(?)	
オーク	zuo2mu4, zuo2su4 栎木	
白樺	hua4su4 樺樹	
ラムソン	han3cong4	
松ぼっくり	song1zei2	
クルミの実	(song1zai2) ya+ng3	
カシワの実・ドングリ	xiang4zi 橡子	
キノコ	muo2ge	mo2gu
木の切り株に生える長柄の キノコ	zei+1muo2	zhen1mo2 針
ニレ, エルムに生えるキノ コ	fao+1muo2	
オークの木に生えるキノコ	muo2ei3	
物語	jiang3	

Vladimir Vasil'evich Sy 氏より得た語

サクラマス	qi2muyu3	
サケ	dam1palyu2	
コクチマス, 満洲マス	xi(e)1niyu2	
カラフトマス	lou1guolziyu2	
山ニジマス	san1galdeyu2	
海ニジマス	hai2galdeyu2	
アメマス	falligao3zi	
ピストウリユーシュカ	xiao3hualbiar3	
海草	hai3cai4	
タコ	ba1desou3 八的手	
イトウ	zelleyu2	
ハゼ, カジカ	da4tou2yu(r)2	
ニシン	xiao2qingr4yur2 小青魚 儿	

サメ	huang2yu2 黄魚	
シカ	lu4	
ジャコウジカ	san1lü2zi ロバ	
ノロジカ	pao2zi	
トラ	lao2ma4zi	
クマ	heilxialzi	
ヒグマ	ma2tuo2zi/ma3tuo2zi	
ツキノワグマ	gou2tuo2zi	
イノシシ	ye2zu3	
山岳羊	san1ya+ng2	
イタチ	hwua+ng2xin4zi 黄心 子(?)	
リス	feilgour3	
ネズミ	hao4zi	
ヘビ	liulzi	
クサリヘビ(ロシアの代表 的毒蛇)	tu1qiu2 土球	
キツネ	hu2li	
ウサギ	tu4zi	
カワウソ	sui2ta+(4)	
サル	hou+1zi	
ゾウ	xia+ng4	
水鳥	sui2ya4zi	
カリ	e2/4	
ツル	cang1be2zi 长脖子	
ワシ	yi+ng4	
カラス	lao3wa2zi	
カササギ	song1ya3	
エゾライチョウ	s*u4jiar(3)	
キジ	ye2ji3	
フクロウ	mao4tour2 猫头	
ヒマラヤユキノシタ	balda+4	(写真 3.10 参照)
朝鮮人参	bang4zui(3)	
モミ	bai2pi2cou4	
カラマツ	fang2huarloung4 黄花 松	
セイヨウスギ	guor2song4 果松	
白樺	bai2pi2hua4 白皮樺	
樺	hua4su4	
赤樺(?)	hong2pi2hua4	
ポプラ	yang2su4	
サンザシ	san1zar4hong2 山査紅	
小リング	tang2li3zi 糖梨子	

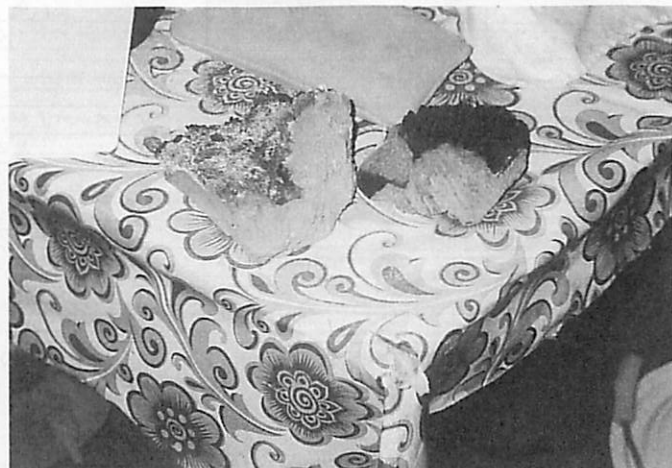


写真 3.9 シベリアアカバナタケ。煎じてお茶にして飲む。

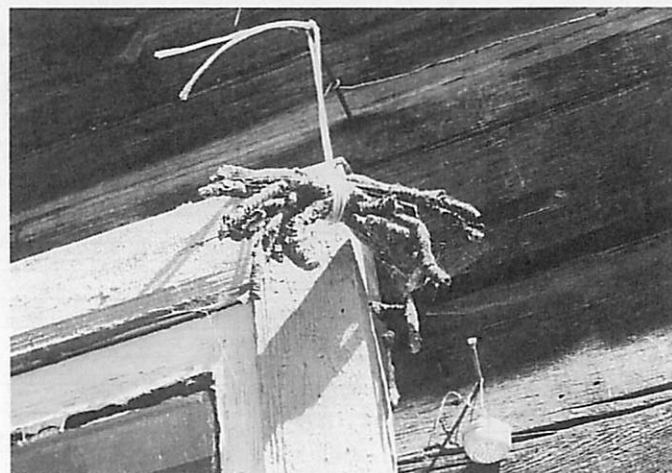


写真 3.10 ヒマラヤユキノシタ。ニコライフカの対岸の崖の上にのみ生えるという。

ヨーロッパノイバラ	ceng4guo2zi 盛(?) 果子	
ヨーロッパノイバラの実	hong4guo(3)	
ブドウ	pu2tou	
ブドウ酒	pu2tou2jiu(r)3	
樹液, 松脂	song1su4y(o)u2zi	
樹皮	su4pi2	
樹皮製の仮小屋	su4pi2fa+ng2zi	
アシ	wei2lu2zi	
カエデ	sai3su4	
ヤナギ	liu2mao+2zi	
エゾマツ	c*ou4songr1 臭松	
キハダ	huang1buo2le	
朝鮮五味子	wu2bai4zigai4ziguo3 五百子蓋子果	
銃	qiang3	
旋条銃	wu3xia2ziqiang(3)	
散弾銃	sa4qiang(3) 砂枪	
カービン銃	xiao2zir2qiang(3) 小子 枪	

1.4.3 基礎例文

つぎに文法を調査するべく、簡単な文をロシア語で書き、ターズ語に訳してもらったものを録音した。翻訳とはいっても前後の脈絡のない文を訳すのはインフォーマントにとって容易なことではない。そのためロシア語での説明を加えているうちに、当初の意図とはかなり違う文が得られたものも多くある。したがって冒頭の日本語およびロシア語の文はターズ語の文を引き出すのに用いたキーセンテンスとでもいうべきものである。漢字は分析後にあてたもので、ターズ語はあくまでも無文字言語であり、彼らは漢字を一字も解さないことに注意されたい。

インフォーマントは Ekaterina Semjonovna Ulasi 氏である。同席していた夫の Kiril Ivanovich Ulasi 氏より答えていただいた文もあり、これには (K) の標示を付した。

1. ほら、(これが)私たちの家です。

(R) Вот наш дом.

- woldi fang3zi. 我的房子
2. よい天気だった。
(R)Была хорошая погода.
jier4ge hao+2tian. (K) 今几个好天
3. よい天気だろう。
(R)Будет хорошая погода.
mier+2ge ye3 hao2tian. (K) 明几个也好天
4. 暖かくなってきた。
(R)Теплеет.
jier1ge mao3hu+(4). 今几个暖和
5. 仕事はもう終わったかい? いや, 今始まったばかりだ。
(R)Работа уже кончилась?—Нет, только что началось.
ni2 gan4huo gan4wan2le. (K) 你干活干完了
jie(r)1 gan4wan2 huor2le. gang1c*ai3 gan4huor2le. (K) 你干完活儿了
刚才干活儿了
6. 彼はよい学生だった。
Он был хорошим студентом.
wo2 d(e)i hao2hao jiao3ha+. wo2 d(e)i jiao3 ta1. (K) 我得好好教呵
我得教他
「私はよく教えなきゃ, 私は彼に教えなきゃ」
7. それは何色ですか。
(R)Какого это цвета?
nal ya+r4zi cai. 哪样儿子彩
8. 食事の用意はできている。
(R)Обедать готова.
zou4fan4le. 作饭了
9. そのコップは水でいっぱいだ。
(R)Стакан полон воды.
stakan man2sui3. gao2duo1saol1sui3. stakan满水 搞多少水(どのくら

- い水をとったか)
ターズ語には「コップ」はなく, ロシア語をそのまま使うという。
10. その服は僕には大きすぎる。
(R)Рубашка (Это костюм) велика для меня.
jie4qia+4 yi1han ni3 c*uan1de da4. (K) 这件衣服你穿的大
11. 彼の身長はどのくらいありますか。
(R)Каков он ростом.
wo3 c*uan1de s*i4s*ier4 hao4. 我穿的四十二号
12. 我々は5人だ。
(R)Нас пятеро (товарищей).
an1me+1/3 wu3ge/wu3wei4. (K) 俺们五个/五位
13. 家はたった2軒しかない。
(R)Домов всего два.
liang2jia4yin3. 两家人/liang2jia4 yin3jia(4). 两家人家
14. ここは暖かい。
(R)Здесь тепло.
jia4 ha+ nao+3hu+4. 家很暖和
15. 今はもう遅い。
(R)Теперь уже поздно.
jier1ge wan3le. 今几个晚了
16. 俺はついているぞ。
(R)Мне везёт.
wo2 z*ao2 qian4le, wo2 jiu4hao3. 我找钱了, 我就好
「金をみつけた/得た, ついてる」
wo2 jian3zao1le, wo2 jiu4hao. (K) 我捡找了, 我就好「金を拾った, ついてる」
17. 僕は眠れなかった。
(R)Мне не спалось.
wo2 jier4ge mei2sui4jiao. 我今几个没睡觉

18. 手の具合はいかがですか。

(R) Как у вас рукой?

ni2 s*ou3 jier4ge z*en3me yang4./wo2 s*ou3 jier4ge hao3./wo2di s*ou3 jier4ge hao3.(K)

你手今几个怎么样 我手今几个好 我的手今几个好

wo3 jier4ge sou2 hao3. 我今几个手好

19. 僕は今、金に困っている。

(R) У меня туго с деньгами.

wo3 jier4ge qian2 bu2degou4 s*i3hua+. (K) 我今几个钱不得够使唤

「今日は金を使うには足りない」

20. あなた1人でそこへ行くのは危ない。

(R) Тебе опасно идти туда одному.

wo2 hai3pa4, wo2 bulqu4. 我害怕, 我不去

21. あなたとお別れするのが残念です。

(R) Мне жаль расставаться с вами.

wo2 bulgen1ni3 qu4. 我不跟你去

22. 困ったことになった。

(R) Случились беда.

ai2ya, j*ong(+m)3di (l)wani3. 哎呀, 窘得 了/哇 你

「あら, あなたは(ずいぶん)困っているね」

23. 彼は声がよい。

(R) У него хороший голос.

tal c*ang4 hao3. 他唱好

24. 彼女は性格がよい。

(R) У неё добры характер.

ni3 xin1 hao3buhao3. 你心好不好

「あなたの心はよいか?」

25. 彼は足が早い。

(R) Он быстро бежит (Он хороший бегун).

wo3 feilpao3. 我飞跑

26. 僕はその帽子が気に入った。

(R) Мне понравилась эта шапка.

wo3 kan4z*ong1 mao4zile. 我看中帽子了

27. この生地は洗いがきく。

(R) Эта материя хорошо стирается (Эта материя хорошо переносит стирку).

jier4ge bu4 hao2 xi3. 这几个布好洗

28. 少年が駆け出した。

(R) Мальчик побежал.

xiao3ha(i)r1 pao2le. 小孩儿跑了

29. 彼女は話し始めた。

(R) Она заговорила.

tal s*uo1 huar4le. (K) 他说话儿了

30. さあ食べ始めよう。

(R) Я буду есть.

wo2 jie4ge c*ilhuan4. 我这个吃饭

31. もう僕はその本を読んでしまった。

(R) Я уже прочитал книгу.

wo2 jie4ge nian4guor1le s*u3le. (K) 我这个念过儿了书了

32. 私はよく彼女とあいます。

(R) Я часто встречаюсь с ней.

wo3 z*englzai4 peng1z*e ta. 我正在/经常碰着他

33. 彼はもう少しで倒れるところだった。

(R) Он чуть (было) не упал.

c*a4 bu+ yi4dia(n)r3, mei4 dou3le. 差不一点儿, 没倒了

34. 私は行こうとしたのに行かなかった。

(R) Я хотел было пойти, но не пошёл.

wo2 xiang3qu4 wo3 mei+1qu4. 我想去我没去

35. 日がだんだん長くなってきた。

(R) Дни становятся длиннее.

tian1z*i c*ang2le. (K) 天日长了

36. 彼らはその家を建てするのに3年かかった。

(R) Они строили дом три года.

talmen gei4fang2zi gei4 san4nian2 le. (K) 他们盖房子盖三年了

37. あなたがここへ来てからどれくらいになりますか。

(R) Сколько лет прошло с тех пор, как вы сюда приехали?

wo3 lai2de jier4 han san1nian2le. (K) 我来的这儿会三年了

38. ボートが動かなくなった。

(R) Лодка потеряла способность двигаться.

c*uan1 diur1le jingr4le. (K) 船丢了劲了

39. 彼は泳げるようになった。

(R) Он научился плавать.

tal jiao2hui4le hu4s*ui3. (K) 他教会了浮水

40. 火事になった。

(R) Вспыхнул (начался) пожар.

jie1li qi2le huo2le. (K) 街里起了火了

41. 彼らは彼を黙らせた。

(R) Они заставили его замолчать.

talmen jia4han bu2yang4 ta z*au+3hua. (K) 他们这儿会不让他说话

42. 私たちは友人たちに自分のうちに来てもらった。

(R) Мы попросили/уговорили своих друзей прийти к нам.

wo3 jie4 ta guo4lai s*uo+3. (K) 我叫他过来说

「私は彼をよんできて話す」

43. 彼にバケツをもってきてもらおう・もってこさせよう。

(R) Пусть он принесёт мне ведро.

wo3 jie4 talai gei2wo3 ling1 na4ge vedro. (K) 我叫他来给我拎那个 vedro

44. 私は頭を刈ってもらった。

(R) Я постригся/Меня постригли.

wo2 jiao3 tou1l*le. 我绞头了

45. 私は君に本を買ってあげよう。

(R) Я тебе куплю книгу.

wo2 gei2ni2 mei3s*u4+3le. 我给你买书了

46. 彼はもう来ているのかもしれない。

(R) Может быть, он уже пришёл.

wo2 deng3ta1, bulei2. 我等他, 不来

「私は彼を待ったが来なかった」

/ni2 zong3 meilai2, ni. 你总没来, 你

「あなたはいつも来ないねえ」

47. もう遅すぎるんじゃないかしら。

(R) Боюсь, уже слишком поздно.

ni2 zen3me zong2dei3 xia4bair2 pau2wan3. bu4hui2lai. 你怎么总得下班

儿好晚, 不回来

「あなたはどうしても仕事が遅くまでかかって, なかなか帰ってこないのか」

48. 君はそれをできるだろうか。

(R) Сможешь ты это сделать?

ni3 bu2fuei4 z*ou4fan4. fuei4. 你不会做饭? 会

49. それはどこでも買える。

(R) Это можно купить где угодно.

sang4 nar2 qu4 mei3 di4, ni3 neng2bu neng mei3z*e(4), neng2 mei3 z*e

(4).

上哪儿去买地, 你能不能买着? 能买着

「どこに行って土地をかうの? 買えるの? 買えるよ」

50. 入ってもいいですか?

(R) Можно к вам (войти)?

lei2ba, c*uang4meir2ba.

来吧, 串门儿吧

「来て、遊びに来てよ」

51. ここでタバコを吸ってもかまわない。

(R)Здесь можно курить.

xiung2 c*ou4yan1ba. 行抽烟吧

52. ここでタバコを吸ってはいけない。

(R)Здесь курить нельзя.

dei3 jiar1 bu4xiung2 c*ou1yan(4). 呆家不行抽烟

「家ではタバコを吸ってはいけない」

53. 私はもうそろそろ行かなくちゃ。

(R)Мне надо уже уходить.

wo2 zou3wa. 我走哇

54. 急がなければならぬ。

(R)Нужно торопиться.

wo3 kuai4 zou3wa. 我快走哇

55. 彼は父よりもむしろ母に似ている。

(R)Он скорее похож на мать, чем на отца.

tal xiang4 tama3.(K) 他象他妈

「彼はお母さんにとってもよく似ている」

56. これが一番いいナイフだ。

(R)Это самый хороший нож.

jie4ge hao2dao+3zi. 这个好刀子

「これはいいナイフだ」

cilba hao3cilba, doul hao3ci4. 吃吧好吃吧, 都好吃

「あまりおいしくないけれども

(口にあまりあわないかもしれないけれども), 全部おいしい(いいものです)よ」

57. この部屋は大きくて暖かい。

(R)Эта комната большая и тёплая.

zei4ge da4fang2zi, nao3hu+4. 这个大房子, 暖和

58. そこには老人と子どもしかいなかった。

(R)Там были только дети да старики.

eiya, neige4 lao3tour4, nei4xiege xiao3ha(i)r1. 哎呀, 那个老头儿, 那些个小孩儿

59. 彼は転んだが、けがしなかった。

(R)Он упал, но не ушибся.

xiao3har1 suEi3le, tal bu2si4 suEi3 huai4le, 小孩儿摔了, 他不是摔坏了
lao3tour, han4z*ele, mei2 suEi3 huai4 le. 老头儿喊着了, 没摔坏了

60. 椅子は5個あるが、そのかわり机はない。

(R)Стульев пять, зато столов нет.

wu2ge bang3deng4, mei2 you3 z*uolzi. (K) 五个板橙, 没有桌子

61. 彼は行ったが、私は残った。

(R)Он поехал, а я остался.

tal zou3wa/le, wo3 s*eng4zi4ger3le/wo3 z*an3z*uole. 他走哇/了, 我
剩自个儿了/我站住了

62. 私たちは手袋も靴も買った。

(R)Мы достали и рукавицы, и обувь.

wo2 mei3 xue2zi, (/tai4) da4 le. 我买靴子, (太)大了

「私は靴を買った, 大きいヤツを」

63. 前へも後へもいけない。

(R)Ни назад, ни вперёд.

wo2 xiang3 s*ang4 nair4s*angr3 qu4, wo3 qu4 le, qu4 bu s*a, ye1 hai3
pa4.

我想上那儿啥儿去, 我去了, 去不啥, 也害怕

「向こうへ行きたい, 行きました, けれども恐かった」

wo3 wang3 hou4 qu4 le, wang3 hui2.(K)

64. 私が行ってみてみましょう。

(R)Я пойду посмотрю.

ni3 qu4 ba, kan4 kan qu4. 你去吧, 看看去

「あなた行ってみてきなさい」

65. 切符がなくても僕は行きますよ。

(R)Если даже и не будет билетов, я пойду.

wo3 qu4, mei3 piaor4./wo3 xiang3 qu4 mei3 piaor4, mei4 you3 piaor4 le.

我去, 买票儿/我想去买票儿, 没有票儿了

「私は切符を買いに行った/私は切符を買いたかったが, 切符はなかった」

/wo3 mei2 mei3zao, mei2 y(o)u piaor4le. 我没买着, 没有票儿了

「私は買えなかった, 切符はなかったから」

66. あなたがどこへやられようとも, 私はいつもあなたについて行きます。

(R)Куда вас ни пошлют, я буду с вами.

ni3 s*ang4 nar3 qu4, wo2 ye3 yi2yan4 gen1 ni3 yi2kuar4 zou3.

你上哪儿去, 我也一样跟你一块儿走

67. 家に帰ってみると, もうみんな寝ていた。

(R)Когда я пришёл домой, все уже спали.

na ni3 qu4 s*ang nar3 qu4, wo2 dei3 jia1 sui4 jiao bu dou?

哪你去上哪儿去, 我呆家睡觉不都?

「あなたはどこに行くの, 私はいつも寝るしかないよ」

talmen dou zou3 le, wo3 huei2lei dou1 sui4 jiao4. 他们都走了, 我回来都睡觉

「彼らは皆帰った, 私も帰って寝る」

68. 雨が降っている間, 私たちは家にいた。

(R)Пока шёл дождь, мы были дома.

xia4 yu2 le, wo2 dei3 jia1. 下雨了, 我呆家

「雨が降って, 私は家にいた」

69. 仕事を終えて彼は帰った。

(R)Закончив работу, он пошёл домой.

tal qu4 tian3 di4 qu le, wo2 jia1 qu4 le. 他去田地去了, 我家去了

「彼は畑に行き, 私は家に戻った」

70. お邪魔なら行きます。

(R)Если я мешаю, то уйду.

ni2 dei3jia4 lei2, gan+4 han2ma. ni3 dang4 wo3 gan4 huo2.

你呆这儿来, 干什么, 你挡我干活

「あなたはここに来て何をしようというの, 私の仕事を邪魔するな」

71. ちょっと何かあると, 彼はすぐ怒る。

(R)Чуть что, он сердится.

ni2 zen3me seng3 qi4 nye. 你怎么生气呢

「あなたはなぜ怒るの」

72. 急げよ, さもないと暗くなるぜ。

(R)Поспешим, а то темно будет.

wo2 zou3 wa, kuai4 heil tianr+1 le./heil tianr+1 le, wo3 kua(i)4 hao2 zou3 la.

我走哇, 快黑天儿了 黑天儿了, 我快好走了

「私は帰るよ, もう暗くなるよ/暗くなった, 私はもう帰るよ」

73. 行きたくても行きたくなくても, 行かなくてはならない。

(R)Хочешь——не хочешь, а идти надо.

wo2 xiang2 zou3 bu4 zou3, dei2 zou3 wa. 我想走不走, 得走哇

1.4.4 言語的特徴

ターズの言語は崩れた中国語であるとする説があるが, これはあたっていない。ターズの言語は, おそらくは入植者の出身地の多くを占めていたであろう山東方言の性格を強く示しているようだ。以下にその特徴をみてゆこう。

まず子音では官話の反り舌音が弱く, 舌があまり反っていない。とくに r の発音は y のように聞こえ, 官話と大きく異なる(たとえば基礎語彙中の 46, 163, 226, 441, 461 など)。Kiril Ivanovich Ulasi 氏の発音ではとくに f が唇および歯で調音されず, 多くの場合 h になっている(たとえば基礎語彙中の 35, 79, 152, 337)。官話の f はさらに p であらわれたものもあった(たとえば同じく 2)。かつての G 音(?)を保存している語もあった(たとえば 331)。

母音 ai は ei のように発音され、ou は u のように発音される。鼻音化が強く、ng や n の前、r の前では母音はしばしば完全な鼻母音である。官話で n や ng を語末にもたない語でも完全な鼻母音を示す語が多数ある。o の母音はあいまい母音 e に近い音で実現するものがある(たとえば 18)。

声調に関して、まず 1 声は官話よりもずっと低い。2 声と 3 声の違いは一部不明瞭である。2 声はいったん下がり、しかる後にゆっくりあがってくるような音調で、官話のような急激な上昇をとまなわない。語末の形声はしばしば 3 声や 4 声のように下がって発音される。

語彙では虹(158)、太陽(159)、俺(基礎例文 12)、dei 3 fan 4(基礎語彙 328)などの語彙が山東方言にきわめて特徴的な語彙であるという。先述したような発音の特徴から、人(226)、肉(46)、朝(168)などの単語はきわめて山東地方的な特徴を示す。

文法に関しては、アルタイ的な語順の文も得られたが(たとえば基礎例文中の 20, 72)、これが基層言語からの影響であるのかはよくわからない。

サクラマスはオロチ語 isima からの借用がもとになったものかもしれない。ポドマスキン氏のいう酒 araki はツングース諸語でみられる形をしている。民俗語彙にあげた N. V. Fujansun 氏による yajiga 「娘」もウデヘ語 ajiga である可能性がある。

この語について氏は、大叔父(祖父の弟)が自分をよぶときにさかんに使っていたという。またこの大叔父は彼女には理解できない別の言語を話していたという。この言語がウデヘ語であった可能性も考えられる。

基礎語彙・基礎例文にみてきたように、やはり結論としてターズの言語は十分に体系的な漢語の一方言である。けっして不完全な漢語もしくはウデヘ語と漢語の混合言語というべきものではない。ただ語順などに関して漢語の性格を大きく逸脱したものがあるかもしれない。細部に関しては北方漢語の専門家による再検討が必要であろう。またむしろこの分野の研究者にとってきわめて貴重な資料を提供する言語である可能性がある。民俗的な語彙に関してもウデヘ語やナーナイ語からの借用であるとはっきり断定できるものはなく、漢語の語構成要素を用いて表現していることがわかる。

2. ターズの文化*

ターズ(ta-czy, tadzy, daczy, tazung, tozung)とは南沿海州に住むあまり大きくない民族集団の名称である。民族名称が実際にさしていた内容はさまざまで、またかわりやすい。満州族と漢民族は沿海州およびアムール河沿いの民族をすべてターズ(ta-czy(tadzy))とよんでいた。

漢民族はターズという言葉でモンゴルをさした(「ダダ(da-da)」もしくは「ダダニ(dadan)」、という古い語から)。そのうちにこの名称は中国の国境をこえて移住したすべての種族に用いられるようになり、最初の意味は失われた。これにより「ダーズ、ターズ(daczy, tadzy)」は「未開人」を意味する普通名称となった。この名称は、19世紀にウスリー流域や沿海州に移住した、ひどい貧困に追われた農民、零細な商人、楽な金儲けを求めて動く者たちなど、漢族と満州族の雑多な構成からなる人々をさすのにも用いられるようになった。19世紀中ごろの G. I. Nevel'skogo 探検隊はサハリンにもちこまれた「トズング: tozung(タズング: tazung)」という民族名称を記録している。そこではウイルタをそうよんだという。大陸ではクハ(kexa)、キャハ(kjasa)、キャカル(kjakar)という名称と同様にこの名称はオロチ、ウデヘ、およびナーナイのことを意味した。

ターズの起源は19世紀におけるかつてのウスリー州の満州族・漢族による植民地化と密接にかかわっている。当時の沿海州の海岸地帯がもっとも急速に同化された。移住者たちの圧倒的多数は男性であった。新しい土地で彼らは家族をもった。妻として原住民、すなわちウデヘ、ナーナイ、オロチの女性をめとった。とくに南および南西地方において土地の人々とよそから来

*第2節「ターズの文化」は調査に同行しガイドもしてくださった V. V. ポドマスキン氏から送られてきた論文である。ロシア語からの翻訳は風間が行なった。よって翻訳において生じた間違いは風間の責任である。また末筆ではあるが、この場を借りて、快く調査に協力してくださったミハイロフカ村のインフォーマントの方々とポドマスキン氏に深くお礼申し上げたい。

た住人の強い混合が始まった。19世紀中ごろまで沿海州においてウデヘとナーナイたちは現在よりもより広大な地域を占めていた。ウデヘの定住部落はポシエツ湾にさえみることができ、他方ナーナイはスイフン川(現在のラズドーリノエ川)、レフ川(イリスチャ川)、そしてウスリー川上流の流域に住んでいた。この地域への異人の出現は、一部の原住民にとって北および北東へ立ち去ることを余儀なくさせたが、他方で居残った者たちは最終的によそ者と混交することとなった。このようにして沿海州での新しい民族的な同一性、すなわち「ターズ」という民族集団の形成が始まったのである。

近隣の諸民族はターズのことをさまざまによんだが、そのこと自体が彼らの複雑な民族的構成を物語っている。そこにはモンゴ・ターズ、すなわち異民族であるモンゴル、マンズ・ターズ、すなわち異民族である満州族、ゴリダ・ターズ、すなわち異民族であるゴリド(ナーナイ)、チリンもしくはキリン・ターズ、すなわち異民族である松花江グループのナーナイ、といった名称がみられる。彼らの集落の場所を示す、さまざまな地域のターズのよび名も多い。すなわち、ウスリーと松花江の河口に住む原住民はサンヘオウ・ターズ(san' xeeou tadza)、つまり「河口のターズ」とよばれ、スチャン川の地域の種族はスジャン・ターズ(suczjan tadza)、つまりス川のターズとよばれた。中国人たちには沿海州の原住民に対する独特のよび名であるワイシェン・ターズがあったが、これは山の向こう、汗の帝国の向こうに住むターズの意であった。

19世紀の70年代、ひとつの民族としてのターズの形成は新しい衝動を受けた。朝鮮人の沿海州への移住が多くなるにつれ、その結果として中国人と朝鮮人の結婚の数が急速にのびた。ポツイズ(potujzy)という固有の自称をもっていたにもかかわらず、こうした結婚による子孫たちもターズの数に含まれた。1878年、ポツイズは全体の1050人のうち49%を占めた。彼らのうちにはとくにスイフンとスチャン地区の者が多かった。

現代におけるターズの歴史はロシア人の圧倒的な量の移住にともなう彼らとの相互作用の結果である。ターズのロシア人への接近はきわめて強力である。結婚による混交はかなりの数にのぼり、ロシア語で児童の教育が行なわ

れ、彼らの母語はロシア語にその地位を譲り、物質文化の面では原住民であるツングース・漢・満州諸民族の要素にロシア文化の諸特徴が加わった。しかしこうした条件下にあってもターズはかなり完全な規模で自分たちの民族的な性格を保っている。ターズは沿海州における教養の高い民族グループである(そのほぼ1/4が都市に住んで働いている)。このグループは自分たちの生業および日常的な特徴に関して安定した自意識を保っている。

ターズの数に関する最初の比較的信頼できる資料は1872年のものと認められる。当時の人口調査によれば彼らは638人にのぼり、そのうちアフワクモフカ地域が459人、スチャン地域が179人である。男女比の構成はきわめてアンバランスで男性の比率は67%であった。つぎの人口調査は1878-1879年に行なわれ、ターズ1050人を記録している。しかも彼らはさらにふたつの地域、すなわちスイフン地区とハンカイ地区にあらわれている。この40%にもものぼる増加は何よりこの調査時にはよりいっそう完全な調査が行なわれたということと関連しているのだろうが、それとともに驚くほど急速なテンポで原住民の同化が進んだことを示しているとみなすこともできよう。1915年の調査ではターズはオリジン郡でのみ記録されている(429人)。ソビエト時代の調査資料ではターズはときどき別に分けて取り扱われず、1959年にはターズはウデヘの民族学的なグループとして154人と数えられている。1970年のある調査はターズに関して、不明としている。1989年の全ソビエトでの人口調査は沿海州におけるターズを203人登録している。ターズの言語は不正確な漢語にウデヘ語およびナーナイ語の単語が混入したものである。

現在ターズの大部分は沿海州オリジン地区ミハイロフカ村に居住している。1938年に至るまでターズは沿海州のアヌチン地区、チュグエフ地区、テチュヒン地区、オリジン地区、およびテルネイ地区にいくつかの家族単位でバラバラに住んでいた。1938年に22世帯のターズをひとつにして、産業協同組合規約を受け入れてゴリーキーという名のコルホーズを組織した。コルホーズには948haの放牧場、森および耕作地が割り当てられた。当初の作付面積は50haに相当し、46haは穀物により、4haは野菜によって占めら

れた。30年代までは彼らはほかの民族と雑然と入り混じって、ラススィブナヤ・パジ、ニコラエフカ、ペルムスコエ、チュグエフカ、タドゥシ(現在のゼルカリノエ)、シバイゴウ、テテュハ、ノヴァニコラエフカ、サンダゴウ(ゴルナヴォドゥノエ)、ミエロフカ、ボゴポリ、マルダヴァーノフカ、ペトロフカ、スウォローヴォ、ペトロパヴロフカ、ニージュヌイ・ルーシュキ、ワンゴウの諸村に住んでいた。これらの村におけるターズの数はいくつなかった。

ほかの民族と密接な接触のなかに暮らすうちに、ターズの日常の分野にもさまざまな文化の相互作用や相互影響による変化がみられるようになった。地域環境に適応して、新しい生活様式を獲得したが、大多数の場合には彼らはみづからの文化(農業技術、家屋、衣服、儀礼)の伝統的基礎を保ち、地域の住人の生活文化に影響を与え、また今度はこちらから彼らの貴重な生業の伝統を借用した。

19-20世紀のターズの経済生活の基礎は農業であり、畜産、狩猟、漁労、さらに朝鮮人参の調達、野生の漿果や堅果の採集、といったことは補助的な分野であった。海岸では一部のターズは海草とナマコを得た。その経済文化に関して、ターズは原住民の民族とは根本的に異なっていた。このことに関してArsen'evは「ターズはおだやかな性格をもち、山に近い側の場所に小さな中国式の小屋を建てて住み、耕作に従事している。彼らはまったく一言もウデヘ語を解せず、例外なく漢語を話す。スキーや山の川に行くことはできず、舟をつくることもできない」としている。

農業がその主たる生業である。畑ではキャベツ、ダイコン、コショウ、レタス、タマネギ、ニンニクが栽培された。量は多くないが、トウモロコシ、マメ、カボチャ、キュウリ、トマト、ウリ、スイカも栽培された。耕作地には小麦、ライ麦、大麦、カラス麦、アヘンケシ、コーリャン、アワ、ヒエなどのさまざまな雑穀がつくられた。工芸作物ではターズは大麻(dama)を栽培したが、かつてその需要は相当なものであった。交換と売買が増すに従って、その栽培は急速に削減された。ターズはまた朝鮮型の機織機(cepidy)も知っていた。いくつかの世帯では以下のような実のなる木がみうけられる。

すなわちナシ、リンゴ、スモモ、スグリ、オランダイチゴである。ターズの畑で必ずみられる特徴といえばそれはケシである(dajan)。

19世紀から20世紀初頭にかけてもっともさかんであったのは焼畑農業であり、未開墾の土地や長期にわたる休耕地に適用された。同じ一区画の土地に数年にわたって種をまいた。土の開墾による水路のシステムが用いられ、乾季における水の最大限の利用とあまりの水を引いてくることが可能になった。彼らには輪作が知られており、また有機の肥料が土に投入された。ターズは鋤(gaotou)、鋤(jangao)、シャベル(muchau)で土を耕した。畑や耕地を耕すための主たる道具は犁(liza)であった。ウマやウシの助けを借りて土を掘り起こし、動かした。ターズには土ならしの道具も知られていた(古代のロシアのタイプの犁はpacy、木の枠のまぐわはpa、除草ぐわはcutu)。収穫の借り入れには鎌(koza lendou)を使用した。ロシアの農民からターズは大鎌を取り入れた。脱穀にはからざお(ljandi)とローラー(kuene)が用いられた。穀物は唐箕(mucheu)の助けを借りて風選され、白樺の樹皮や柳の細枝を編んでつくったもの(pochi)で皮をとることもまれではなかった。トウモロコシの穂は手で皮をむくか、もっとも単純な機械(wapomi cuanza)でむく。これは木の土台からなり、トウモロコシを通す卵型の穴があいている装置である。脱穀し皮をむいた穀物は倉に保存する。小麦粉とアワは製粉してつくる。19世紀の終わりにはターズは脱穀機をもっていた。脱穀機は石の臼と木製の杵からなる。

狩猟はターズの日常のかなりの部分を占める。狩猟は純粋に男の仕事であり、きつくてたいへんな仕事である。アカシカ、ジャコウジカ、山レイヨウ、クマ、野鳥をとり、さらにリス、イタチ、キツネ、オオヤマネコ、クロテンなどの毛皮獣をとった。19世紀後半から20世紀初頭にかけては袋角のある若シカの猟が大きな意味をもっていた。その角はシカの年齢と枝角の分岐の数によって値がつけられた。袋角は中国人や満州人に売られ、また伝統的な薬として用いられた。薬の原料としては干したアカシカの尻尾(luicza)および腱(ludin)も使われた。猟で捕獲された母ジカの腹のなかに子ジカがいた場合にはたいへんな価値があった。もっとも価値があるとみなされていたの

はジャコウジカのジャコウ(saljunsjan)であり、その脳、心臓、肝臓と胆のうであった。ジャコウジカの牙と蹄は狩りの幸運を導くお守りとなった。ターズは狩りの獲物はあますところなく利用した。狩りの獲物の一部は直接生活に利用され、一部は食料品や衣類などとの交換や購入、および借金の返済にあてられた。

狩りは1人でも、また協力しても行なわれた。銃とイヌによる猟がもっとも一般的であった。自動弓やトラバサミも使用されたし、獣道での木製の圧殺わな、輪によるわなではジャコウジカや鳥をとった。かつてターズは弓矢、さらに槍(tyda)を用いて狩りをした。アカシカ、ヘラジカは塩水泉(tijancan)に来るところを待ち伏せした。その目的のために特別な敷物(jauza)を用意した。アカシカの発情期には白樺の樹皮でつくった筒型の囀笛でアカシカをとった。

漁労はターズにとって副業的な意味しかもたなかった。魚は人およびイヌの食糧になった。かつては魚皮から衣服や糊をつくった。猟の主たる対象はサケ・マス科の魚である。大部分の魚はヤス(pawangza)によってとり、かけ針、網、敷き網、簗も用いた。ターズには大網(tawan)もあった。20世紀初頭にはターズの生活における漁労の役割はどんどん小さくなった。この縮小は農業と畜産の習得の拡大に従って進行した。現在沿海州オリジン地区ミハイロフカ村のターズにおける漁労は愛好家の漁として残っている程度である。

ターズの生活においてタイガと森の恵みの採集は重要な意味をもっている。年配の男性が従事した朝鮮人参の採集は経済的な効果の点で第1位を占めていた。朝鮮人参を探しに行く者は2, 3人で出かけたが、ときには大きなグループによることもあった。朝鮮人参の根の価値は重さと葉っぱの数、年齢で識別された。その年齢による根の特徴の叙述が知られていた、sanfa, pachanza, oktjaza, tantajza, sy pie, u pie, lju pie, cu pieである。そのなかでもっとも価値があるとされたのは六枚葉(lju pie)の根であった。ターズは朝鮮人参をみつけるとすぐに「パンツイ! (pancuji!, 「人参」を意味する)」と叫ぶのであった。タイガでターズは木に生える食用のキノ

コ(muegu)を集めた。キノコは食べ物として用いられたばかりではなく、中国人の仲買人への売り物となった。ターズはワラビの芽(tjuecaj), ラムソン(xancun)を食べ物として集め、麻(sama)やアシ(cenze)を生活上の必要から集めた。女性と子どもはハシバミ(cenze), 満州クルミ(xetou), セイヨウスギの堅果(sjangze), さらに満州リングも集めた。

海岸でターズは海草(hajcaj), テングサ(libo tu), ホタテ貝(xeza)を集め、ヤスと底引き網でナマコをとった。ナマコの漁期は毎年3月末から6月と、9月後半から10月初旬であった。さまざまな仕事のなかにあつて、朝鮮人参採集が経済面では独立した分野となっても、ターズにとって採集は依然二次的な性格のものであった。

ターズは19世紀半ばから20世紀に入ってもなお自分たちの生活に不可欠なものを自分たちの家族の力の範囲内で調達することを好んだ。男たちは鍛造の技術や金属、骨、木、角などの加工の技術をもち、家屋を建て、網を編み、わなや狩猟漁労用具、生活必需品一式を用意した。女性たちは食事をつくり、服を縫い、獣皮および魚皮を加工し、刺繍し、家のなかのさまざまな仕事を果たし、採集に携わった。家内工業のなかで鍛冶および貴金属の工芸は高水準のものであり、木の加工と白樺の樹皮から生活用品をつくるのが一般的に行なわれていた。大工および指物業には以下のような種類の木が用いられた、白樺(xua su), エゾマツ(sunsu), セイヨウスギ(kosu), モミ(paipicu), エゾマツ(xypicu), アムール・キハダ(xoangboli), ハンノキ(puosu), シナノキ(tuansu), カラマツ(chebejsung), エゾノウスミズザクラ(couliza), シナノキ(jansu)。白樺の樹皮の加工は女性の仕事でも男性の仕事でもあるとみなされていた。男性は何より白樺の皮をはぎ、女性はそれを手工品とすべく準備した。白樺製品は20世紀の40年代までターズの日常生活で保存されていた。

ターズは獣皮および魚皮の加工を行なった。獣皮は特別な道具・器具によって加工された。真皮を取り去るためのひっかけ具(kuadou), 両手カナ(supiza chanza)などである。毛皮獣の獣皮は女性が加工した。ターズにはシカの皮を加工する方法も知られていた。強さを付与するためにドロヤナ

ギや柳の朽木の一片を用いて皮をなめした。

魚皮は例外的に女性によってのみ、獣骨性のナイフによって加工された。この目的のためにはサケ・マス科の魚のほか、コイ、カワカマス、ハクレンなどが使われた。魚皮からはウロコを取り除き、特別な丸太を輪切りにした台の上で木のハンマーを使ってやわらかくした。それからいぶし、必要があればさまざまな色で彩色した。かつてターズは魚皮、獣皮を服や靴、家庭用品を縫製するために用いた。

ターズは糸をシカの腱と野生の麻から調達した。麻をぬらし、ひっぱり、紡錘(synceza)を使ってよりあわせた。糸から、糸巻き(fantinja、軸のまわりに小さな木の枠の形のもがまわるタイプ)を使って縄をなつた。縄はふたつの糸巻きでない、その端は壁や竿に固定した。野生の麻の糸からターズは木製の針を使って網を編んだ。網の目の大きさは木製の型によって調節した。アシからターズは模様の描かれたござ(wejluzza)を編んだ。柳の根と細枝からは籠をつくった。細枝は5月もしくは10月に集めた。

ターズの毎年の生業の周期はつぎのように定まっていた。5月から8月までは朝鮮人參を採集し、9月には畑仕事をしつつ狩りの季節の準備をし、サケ・マスをとった。10月から2月にはクロテンをはじめ毛皮獣をとった。3・4月には家の仕事をし、魚をとり、肉となる獣をとった。

ターズの伝統的な村は山やタイガに近い台地にある小村落であった。通常の集落と同時に、ターズには狩猟や漁労のために一時的に使用される仮小屋があった。

ターズの村(ton'za)はあまり大きくないのがふつうであった。ターズの村の大部分は移住者の名によって名づけられた、ワンゴウ(wangou)、サンダゴウ(sandagou)、シダゴウ(sydagou)、シバイゴウ(sibajgou)など。たくさんある村には川の名前がついている、タドゥシ(tadushi)、テテュヒン(tetjuxen)、スズヘ(sudzuxe)、トゥルフ(tulxu)など。ときどき村のまわりには木の垣がめぐられ、入り口には大きな1枚扉の門と門の掛けられる木戸が設置された。村の統合と小村の閉鎖のプロセスは20世紀初頭に始まり、定住への移行とターズへの土地の分配をとまっていた。1914年に、

マルガリータ地区のダトゥンゴウ村(datungou)には6世帯、ペルム地区のエルダゴウ村(erldagou)には11世帯、アフワクモフスカ(avvakumovsk)の小村には2世帯、ユシャンゴウ(jushangou)のターズの村には12世帯のターズがいた。村の移動は20世紀の30年代に連行による全面的な村の集結によって始まり、とくに60-70年代、いわゆる「将来性のない」とレッテルをはられた村の閉鎖が実現した際に、移動の波は強く行なわれた。

ターズは定住式の生活を実行した。家屋と倉などは、土地の自然および気候条件によく適応して建てられた。彼らの主たる家屋は丸太小屋タイプ(fanzy)のものであった。冬用家屋は四隅をもち、南側に窓があった。暖房としてはひとつから3つのかまどがあり、煙道は低く床下をオンドルとして通り、壁を突き抜けて、家の外の近くにある垂直の煙突から煙りが出された。家の床はかたく踏み固められた土間か、粘土を塗ったものであった。丸太の骨組みは梁をともなった屋根におおわれた。横木が組まれ格子状に屋根がつけられた。屋根はカモジグサ(tajaczan)もしくはアシ(wejluzza)の束で葺かれた。屋根の上は横梁と縦の角材によって押さえておかれた。季節用の仮小屋は片斜面の小屋(supichan)と円錐形のチュム(テント:cuelu)であった。倉などの農業用の建物としては、ふたつの斜面をもつ小屋と、木の床をもつ円柱・円錐形の柱の骨組みをもつ倉(canza)が建てられた。4本の杭による倉(cudjao)は穀物の保存用でもっとも一般的なものであった。野菜の保存のためにターズは地下の保存場所(tjouza)をつくった。魚や網、肉、野菜、網を乾かすための1重の棚もふつうにみられた。

ターズの衣服はその用途によって、普段着、狩猟漁労用、祭礼用、儀式用があり、1年の季節によっても、夏用の裏地なしのもの、裏地のある合着のもの、冬用の綿入りもしくは毛皮のものがあつた。男性と女性の衣服には本質的な違いがあつた。男性の衣服は上着とズボンからなつていた。ズボンは帯で腰に固定され、前で帯をしぼつた。男性はスカート(luechuj)と下がフレアー式になっていて腰のところが狭くなっている長い上衣(tjao)を身につけた。長い上衣は淡青色と濃青色の綿で縫った。ズボンは布製の靴下(waze)にその端を差し込んだ。足にはその上に長い靴下(tjauku)を履き、

バンドで帯に固定した。夏には皮もしくは布製の軽いスリッパ状の靴(sie)を履いた。秋と春にはアムールのタイプのなめし皮のわらじ(sysaza)を身につけた。それらはウシ、ウマ、ブタの皮から縫ってつくった。靴の中敷きにはスゲ(ulecas)を使った。それは足を暖め、歩行に際して汗を吸収した。皮わらじは足にバンドもしくはひらひも(ule taj)を使って固定された。冬用のターズの靴は綿製、毛皮製、なめし皮製、皮製(ula)であった。衣服類のなかでも必須のものは白樺樹皮製のつばの広い帽子(wej lin tou)である。冬にターズの男性は防寒帽をかぶった。毛皮製、綿製、さらにフェルトの丸帽があり、ひさしや耳当てが縫いつけられた。狩猟用の服は皮または毛皮で縫った。それは緩く長い上衣とズボン、長い靴下、靴およびかぶり物からなっていた。ときどきボタンがなくて前でかきあわせるタイプの、袖のない毛皮のチョッキ(kandjajr)を着た。雪から首を保護するためにスカーフ(pe-kenga)を身につけ、春と秋には蚊に対する防御のため、明るい色の頭巾(wanmao)をかぶった。ズボンの上には猟師用の外套とスカート(luachuj)をまとった。雪どけ後に凍った雪面や氷の上を歩くのに猟師たちは靴に鉄のかんじきを固定した。狩猟の衣服に欠かせない部分は皮製の腹帯(pupi)である。それは後ろから上衣のすそもしくは帯に固定された。冬は毛皮の手袋(soubazanza)をはめた。親指は折り返しによって手袋に固定され、その下側には手のひらの幅の切れ目があって、手袋を脱がずに指を出して銃を扱えるようになっていた。服はぬれないように煙りでいぶし、獣の脂をしみこませた。女性の民族衣装は男性のそれと大きく異なっていた。19世紀の60-70年代、ターズの女性の衣服は魚皮、獣皮、毛皮、木綿および毛糸の布などからつくられた。しかし20世紀の20年代にはすでに魚皮は使われなくなった。この時期には中国や満州から来た布はロシアの工場で生産された布にすっかり置き換わった。女性の肌着は上に着る衣服と何らかかわるところがなかった。女性の上衣は男性のものと同様、キモノのタイプの裁ち方だが、長さにおいて異なっていた。それは膝下まであり、色は青、褐色、黒でまれに赤であった。男性の上衣と違い、女性の上衣には飾りがあった。縁に沿った色柄の縞、飾り、とめ金、ボタン、貝殻などである。合着の女性の上衣は袖がなく、ま

んなかに切れ込みがあって綿が入っていた。女性の頭はショール(seude)でおおわれた。冬女性は帽子をかぶった。女性の服で忘れてはならないのは保温のためのひざ掛け(teuter)と仕事の際に服が汚れないようにするエプロン(wychu)である。現在ターズの民族的衣装はほとんど用いられなくなった。現在ターズの衣服は現代のヨーロッパ風のものである。最近まで多くの家庭で婚礼および葬式の儀礼用の服が保存されてきた。婚礼用の服はふつう赤い布で縫われ、葬式用は白であった。死者の頭には6枚の細長い三角形の布でできた円錐形の帽子(tjamouza)がかぶせられた。冬はそれは綿製だった(mjamouza)。婚礼のときのかぶり物もまったく同じ裁ち方であった。かぶり物のてっぺんには赤い玉状のもの(lynza)がつけられた。死者の足にはスリッパが履かされた。

伝統的な女性の服は装飾と下げ飾りで飾られた。ターズの男性はふつう飾りをつけなかった。女性たちの装飾品には、耳輪、指輪、腕輪、首飾り、髪どめ、髪飾りなどがあって、銀でつくられた。ヘアピンはふつう銅でつくられ、金や銀のものは少なかった。飾りとして軟玉が使われた。19世紀の60-70年代には男性のもっとも一般的なヘアスタイルは黒もしくは赤の編み紐を巻いた1本の弁髪(pjan'za)であった。ときどき男性は額から頭の半分のところまで髪をそって残りを弁髪に編んだ。こうした男性のヘアスタイルはtxinoudejとよばれた。ターズの女性の髪型は年齢と家族における立場によって異なっていた。未婚の娘たちはまっすぐな分け目で髪をふたつに分けて編み、赤もしくは青の編み紐で巻いていた(toubu pikej)。花嫁は髪を解き、頭のまわりに結って赤い編み紐でしばった。この花嫁の髪型はwypmjanzaとよばれた。既婚女性は後頭部で結んで玉にした(kata der)。束にした髪型が崩れないように小さな網(tobowa)をかけた。子どもたちの髪は大人たちのようには散髪せず、小さな弁髪に編んだ。

もっとも確固とした伝統は食事に残った。なお19世紀後半から20世紀にかけてはターズの食事のなかでは狩猟・漁労で得た魚肉類が1位を占めた。かなりの量の獣の肉(ju)、魚(juj)そして野鳥の肉が用いられた。家畜の出現によって肉料理の品目は増えた。ターズはアカシカおよびヤギの肝臓、臍

などの生肉を食べた。多くの肉は貯えとされた。ルイベ(凍らせた生肉)はターズの好む料理のひとつである。ターズは鶏卵を広く用いる。ザリガニやカメの肉とその卵を食材に用いることも好んだ。ターズにとって海および川の魚は食べ物のなかで重要な位置を占めていた。とくにサケ・マスをたくさん貯えた。キノコ、ベリー、海草、ラムソン、ワラビなどの野生の植物類も食べ物となった。海草は塩漬けにし、発酵させもした。ほかの海の産物としてターズはホタテ貝、ナマコを用いた。ナマコは薬として、またお祝い用の食べ物として用いられた。穀物および野菜の栽培の習得により、ターズの生活において農業作物が果たす役割はますます大きな意味をもつようになってきた。近年ではそれが食べ物のなかで1位を占めている。伝統的な食べ物は日常のものと祭りもしくは儀礼用のものに分かれた。調味料を加えた肉か魚のスープ(putxan)をふだんの料理とするならば、祭りの食べ物として欠かせないと考えられているのは、ノロジカ、アカシカ、魚の心臓と血漿を煮たもの、アカシカの腱・血管を煮たもの、キノコをネギを加えて軽く炒めたものなどである。ターズではキノコのスープがきわめて一般的であり、民族的な食べ物と考えられている。キノコは肉の出し汁で煮るが、まれに水でも煮る。ターズは土に生えるキノコと同様に木に生えるキノコも貯えた。木に生えるキノコの方をより好んだ。ターズの食べ物では、魚の油とネギで味つけた海草のスープ、およびホタテのスープ(xeza ju cajtan)が欠かせないものである。ターズの食べ物ではあらゆる種類の雑穀を炊いたもの、かゆが重要な位置を占める。かゆはつねに塩を加えて炊く。水を少なく炊いたもの(gamfa)と多く炊いたもの(siczou)に分けられる。かたく練った小麦粉製品もきわめて広く用いられる。小麦粉もしくはそば粉よりもっとも好まれる料理のひとつである麺類(mjantjoza)がつくられる。麺類は肉、キノコ、辛いソースとともに食べる。ターズは茹でたトウモロコシ(xu baumi)を食べることも好む。ターズの間では野菜の料理も一般的である。生の野菜はさまざまな種類のサラダ(lancaj)になる。エンドウマメとインゲンマメの若いさやが大量に貯えられる。それらは煮てから、油で炒める。この料理は肉や魚に加えられる。ターズはカボチャ、スイカ、メロンも栽培する。ターズは茶お

よび地酒の蒸留酒(araki)、ブドウやナシのワイン(niru)を飲む。現代のターズは、かつてのターズの食べ物には欠けていたパン、砂糖、乳製品を食べる。

家族関係における伝統的な習慣の要素はもっともかたく保持されている。一夫一妻制が圧倒的であったが、なお20世紀の30年代にあっても裕福なターズのなかには多妻のケースをみることができた。ターズの家族においてもっとも特徴的であることは年輩の者、とくに両親への敬意である。つい最近までターズの家族はたいへん子だくさんであった。花嫁の身請け金、すなわち婚資の制度は保持されてきた。陰暦による正月、婚礼、葬式における儀式が保持されてきた。婚礼はいくつかの段階からなる。伝統的な年中行事と家族内の祭りにはごちそうと歌と遊びがつきものである。彼らは漢民族の結婚の儀式である「共有の杯」を借用した。ターズの信仰は狩猟における儀礼と先祖に対する信仰(埋葬と追善供養)を保持している。ターズはかなり儒教や仏教観の影響を受けている。シャーマニズムに関してはわずかにそのなごりがある。

何世紀にもわたるターズの経験は彼らの民族のカレンダー、度量衡法、医术や猟に関する俗信、民間伝承に反映している。

ターズの世界文化のさまざまな側面は彼らの民間芸術、信仰、儀式および民話に明らかにあらわれている。ターズの創生神話は中国および満州族起源のものである。歌、ことわざ、早口言葉、地名に関する伝承を今に伝えている。白樺樹皮および布、皮からつくる模様はツングース満州諸族のものに近い。ロシアからは家の窓の庇の飾りを借用している。

1930年代の集住化以降、ターズには狩猟経済組合が組織された。多くの伝統文化は消滅し始めた。経済事情の悪化にともない、家族の基盤は崩れ、出産率は低下した。どこでもロシア語ばかりが話されるようになった。他方民族みずからのインテリ層が形成され、現在ではターズの民族としての自覚意識の高揚がみられる。

文 献

- Arsen'ev, V. K. 1949. Lesnye ljudi-udexejcy. Sochinenija, T. 5. Vladivostok.
 Belikov i Perekhvar'skaja. 1994. tazov jazyk. In: Red Book of the Language of Russia. V. P. Neroznak i dr. (ed.), Leningrad.
 池上二良. 1989. 「ツングース諸語」, 『言語学大辞典』(第2巻)(亀井孝・河野六郎・千野栄一編), 1058-1083, 東京, 三省堂.
 Lar'kin, V. K. 1956. K voprosu o tazax. Kratkie soobshshenija Instituta etnografii AN SSSR. Vypusk 31.
 Podmaskin, V. V. 1997. Tazy. Primorskij kraj, Kratkij enciklopedicheskij spravoch-nik. Vladivostok, Izdatel'stvo Dal'nevostochnogo universiteta.
 Sem, Ju. A. Istorija i kul'tura tazov. Arxiv Instituta istorii, arxeologii i etnografii narodov Dal'nogo vostoka DVO RAN, Vladivostok. F. I. Op. 2. D. 22.
 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研). 1966, 1967. 『アジア・アフリカ言語調査表』上(1966), 下(1967), 東京.
 Turaev, V. A. 1993. Tazy. Vestnik DVO RAN. No.1.
 Vrailovskij, S. N. 1901. Tazy, ili udixe. Zhivaja atarina. vyp. 2-4.

エヴェンキ人の名前からみた文化の変遷

第4章

D. O. 朝克

1. はじめに

エヴェンキ人は主として中国, ロシア, モンゴル国などの国に生活する多国籍少数民族であり, 人口はあわせて6万1000人(1997年の統計)である。現在エヴェンキ人は中国においては, 内モンゴル自治区フロンバイル盟のエヴェンキ族自治旗, オロチョン族自治旗, およびホーチンバルグ旗のエヴェンキ村, エルグナ旗のエヴェンキ村, モリンドワ・ダグール族自治旗のバイン・エヴェンキ村とドルル・エヴェンキ村, アルン旗のチャラバチ・エヴェンキ村, ザラントン市のサマジエル・エヴェンキ村, 黒竜江省納河県のエヴェンキ村, および嫩江県の各地と, 新疆ウイグル自治区イリ地方である。ロシアにおいては, エヴェンキ人はつぎの各地に生活している。すなわち, 東シベリアのエニセイ川からサハリン西海岸まで, 北氷洋へ直接入る諸川との分水界地方からアムール川までの広い地域にあるエヴェンキ自治管区, タイムイル自治管区, プリヤート自治共和国, ヤクート自治共和国, イルクーツク州, トムスク州, チタ州, ハバロフスク地方, サハリン地方である。モンゴル国においては, エヴェンキ人は北部のバルグ地方に集中している。

エヴェンキ(ewenke, 漢語では鄂温克)はこの民族の代表的な自称で, 「山から降りてきた人々」を意味する。エヴェンキという語は, 日本ではエウェ

阿 拉 騰 (Alta)
北海道大学大学院文学研究科博士課程修了

池谷 和信 (いけや かずのぶ)
国立民族学博物館民族社会研究部助教授

煎本 孝 (いりもと たかし)
北海道大学大学院文学研究科教授, 国立民族学博物館併任教授

汪 立珍 (Wang Lizhen)
中国北京中央民族大学助教授

風間伸次郎 (かざま しんじろう)
東京外国語大学外国語学部助教授

岸上 伸啓 (きしがみ のぶひろ)
国立民族学博物館先端民族学研究部助教授

呉人 恵 (くれびと めぐみ)
富山大学人文学部助教授

佐々木史郎 (ささき しろろう)
国立民族学博物館民族学研究開発センター助教授

佐々木 亨 (ささき とおる)
北海道大学大学院文学研究科助教授

菅 豊 (すが ゆたか)
東京大学東洋文化研究所助教授

ロレーナ・ステンダルディ (Lorena Stendardi)
元北海道大学国費研究留学生

D.O. 朝 克 (D. O. Chaoke)
中国社会科学院教授

津曲 敏郎 (つまがり としろう)
北海道大学大学院文学研究科教授

V.V. ボドマスキン (V.V. Podmaskin)
ロシア科学アカデミー

山田 孝子 (やまだ たかこ)
京都大学総合人間学部教授

煎本 孝 (いりもと たかし)
1947年 神戸市に生まれる
東京大学大学院理学系研究科修了, Ph. D. (哲学博士)
(カナダ サイモン・フレーザー大学大学院)

現 在 北海道大学大学院文学研究科教授, 国立民族学博物館併任教授 文化人類学・生態人類学・自然誌専攻

著 書 *Chipewyan Ecology* (Senri Ethnological Studies 18, National Museum of Ethnology, 1981), 『カナダ・インディアンの世界から』 (福音館書店, 1983), *Ainu Bibliography* (Hokkaido University, 1991), 『文化の自然誌』 (東京大学出版会, 1996)

編著書 *Circumpolar Religion and Ecology: An Anthropology of the North* (Co-ed., University of Tokyo Press, 1994), *Circumpolar Animism and Shamanism* (Co-ed., Hokkaido University Press, 1997)

東北アジア諸民族の文化動態

2002年2月25日 第1刷発行

編 著 者 煎 本 孝

発 行 者 佐 伯 浩

発行所 北海道大学図書刊行会

札幌市北区北9条西8丁目 北海道大学構内 (〒060-0809)

Tel. 011(747)2308・Fax. 011(736)8605・http://www.hup.gr.jp/

アイワード/石田製本

©2002 煎本 孝

ISBN 4-8329-6241-8